

雪の音

ゆき おと

平成24年6月15日発行 Vol.115



社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

巻頭言…防災・減災に役立つ情報の発信	北陸地方整備局長 前川 秀和 …………… 1
特集…富山大橋（都市計画道路呉羽町袋線）が開通	富山県富山土木センター …………… 2
随想…災害時にも安全・安心な道路の役割を考える 受援力と支援力を繋ぐ「道」づくり！	若林 和枝 …………… 6
寄稿文…良寛さんに学ぶ	長谷川 義明 …………… 8
ちょっと気になるコーナー…「猫ひろし 残念！カンボジア？」	中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎 康裕 …………… 12
お知らせ…平成23年度 新潟県土木部との意見交換会概要	対外活動部会 新潟地域委員会 …………… 15
独占禁止法等コンプライアンスに関する講習会	広報部会 …………… 18
平成24年度（第30回）北陸支部通常総会	事務局 …………… 20
受注状況…平成23年度 受注実態調査集計結果報告	広報部会 …………… 21
支部活動報告	事務局 …………… 26
会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局 …………… 38
編集後記	須藤 勝彦

題字 元北陸地方建設局長 廣瀬 利雄 揮毫
表紙写真 新緑の吊橋
撮影地 新潟県村上市岩石
撮影者 猪俣 孝之



防災・減災に役立つ 情報の発信

北陸地方整備局長

前 川 秀 和

去る3月31日に内閣府の検討会は南海トラフの地震想定を見直した。マグニチュード9.1の地震が起これ、従来想定の高さの津波が襲来するというショッキングなものである。これは東日本大震災の教訓を踏まえ、連動範囲の見直しや津波堆積物の調査結果などをもとに考えられる可能性を全て反映させたためと説明されている。

3. 11以前は一部の学者の間でしか知られていない貞観地震（866年）が、今では国民の誰もが確実に起きたと信じているように、従来、江戸中期以降の文献上信頼に足る記録が残っている地震を分析対象にしていたのに比べ、格段の進歩である。

報道によると一部に無責任な想定との議論もあるが、防災関係者は冷静な議論の下に、ハード・ソフト一体となった対策を着実に進めるべきである。

地震学の進歩は著しいが、100年前にヴェゲナーが唱えた大陸移動説が、ウイルソンによりプレートテクトニクス（プレート理論）として完成したのは、44年前の1968年でしかない。プレート境界におけるアスペリティーモデルが提唱されたのが1980年頃、国土地理院がGPS連続観測網の運用を始めたのが1994年と見てくると、超巨大地震の周期に比べ、理論構築やデータの蓄積期間が如何に短いことか、慨嘆せざるを得ない。

一方、地震の被害は地盤の状況や構造物の耐震性能により大きく変化する。昭和39年の新潟地震では初めて「地盤の液状化」が広く認識され、[パイルベント形式]の昭和大橋が落橋し、石油タンクの「スロッシング」に起因する火災が発生するなど貴重な経験を積み、その後の防災に役立っている。また、その後の阪神大震災、今回の東日本大震災でも多くの教訓を得た。

地下深いプレート境界の状況に比べれば、地形・地質などの地盤状況は多くのデータにより既知であり、施設の配置、設計条件も既知である。北陸地方整備局では新潟県内の「液状化しやすさマップ」を作成し公表したが、問い合わせも多く、住民の皆さんの関心が非常に高いことが伺える。

国民の防災意識が以前とは飛躍的に高まった今、自らが住んでいる場所や建物に関する正確な災害情報を提供することが、災害発生時の初動期に重要な役割を果たす自助、共助の能力向上に結びつく。昨年7月の新潟福島豪雨においても三条市、見附市の洪水ハザードマップの有効性が実証された。今後とも、官学民の力を結集して積極的な災害情報の提供に努める所存である。建設コンサルタントの皆さんのご支援ご協力をお願いしたい。

富山大橋(都市計画道路呉羽町袋線)が開通

富山県富山土木センター

1 はじめに

都市計画道路呉羽町袋線(県道富山高岡線)は、県都富山市と高岡市を最短経路で結ぶ大動脈であり、街の骨格となる重要な幹線道路です。

また、本線の富山大橋付近での自動車交通量は1日当たり約3万台あり、2車線道路では朝夕はもとより日常的に交通渋滞が起きていました。

また、旧の富山大橋は、昭和11年の供用から約76年経過し、老朽化が進んだことや、近年の車両の大型化を考えると通行の安全性を確保するのが難しい状況でした。

このため、平成11年より富山大橋架け替え事業を進め、平成24年3月24日、新しい富山大橋が開通しました。



2 事業の概要

事業計画のポイントは以下のとおりです。

○車道の4車線化

五福交差点から安野屋交差点までの約1.0kmを4車線化します。

○歩道幅員の拡幅

富山大橋は歩行者・自転車の数も多く、旧の2mの歩道幅員ではすれ違いも困難だったことから、歩道幅員を4.5m(一般部5.5m)に広がります。

○路面電車の複線化

公共交通の活性化を図り、路面電車の軌道を騒音や振動を抑制する制振軌道(樹脂固定軌道)により複線化します。



上空より(左が新しい富山大橋)

【事業全体の概要】

路線名：都市計画道路呉羽町袋線(県道富山高岡線)

事業箇所：富山市五福～安野屋地内

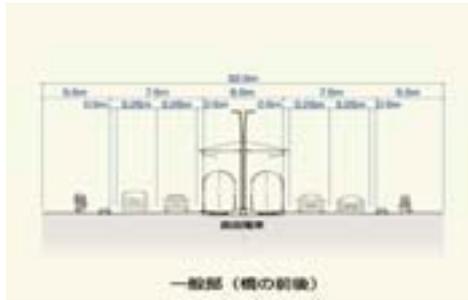
事業延長：道路改良区間約 1.3km

(うち橋梁部466m)

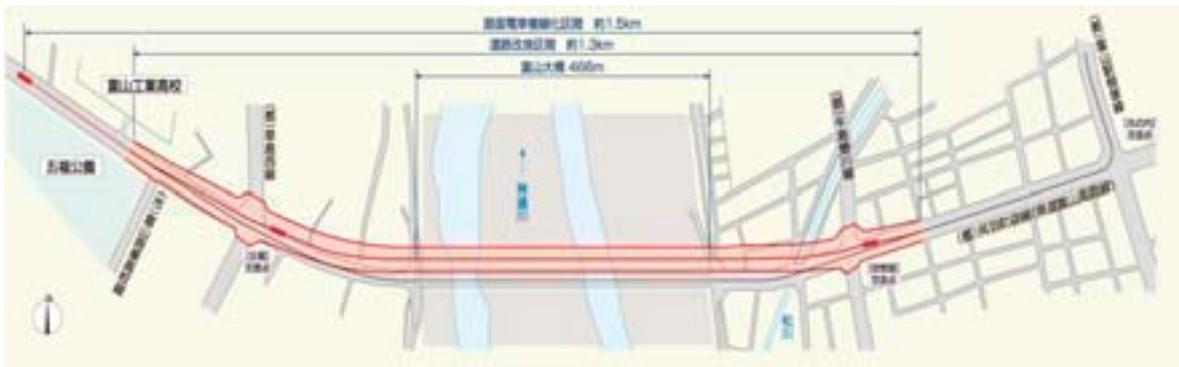
路面電車複線化区間 約1.5km

事業期間：平成11年度～平成26年度

総事業費：約250億円



標準横断面（一般部）



計画平面図

【富山大橋の概要】

上部工形式：8径間連続鋼非合成箱桁

下部工形式：逆T式橋台、壁式橋脚

基礎形式：橋台－杭基礎、橋脚－ケーソン基礎

橋 長：466m

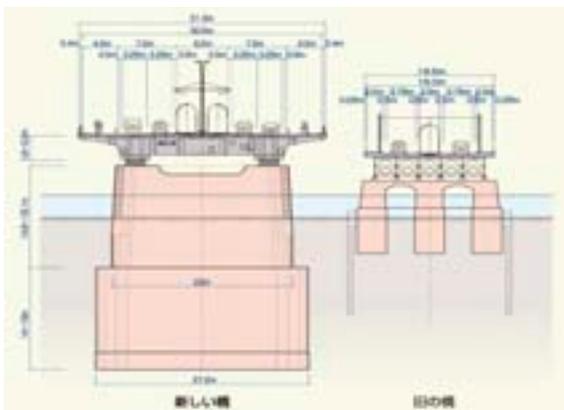
幅 員：総幅員30.5m

（車道） $2 \times 7.5\text{m}$ （片側2車線）= 15.0m

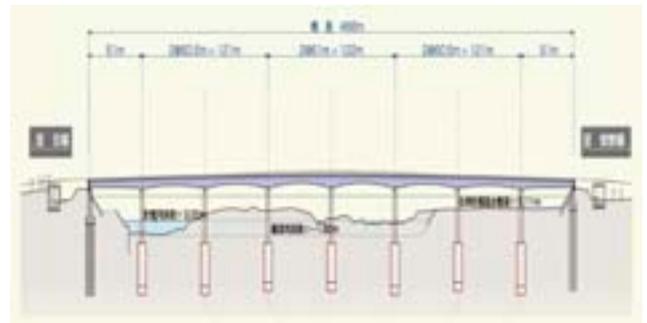
（自転車歩行者道） $2 \times 4.5\text{m}$ = 9.0m

（路面電車道）6.5m

活荷重：B活荷重



橋梁横断面図



橋梁側面図

3 新しい富山大橋の特徴

1) 設計の基本方針

新しい富山大橋の設計の基本方針は、富山大橋計画検討委員会（委員長：篠原修 東京大学名誉教授）により検討され、以下のとおり定められました。

- 立山連峰の眺望と調和した橋梁形式を基本とする
- これからも市民に愛される絵になる橋の形とする
- 親しまれる橋となるよう、人がくつろぎ、安らぐことのできるバルコニーなどを整備する

この基本方針により、新しい富山大橋の形式は「桁高変化を有する鋼箱桁橋」が採用されました。

なお、橋桁の色は「青鈍（あおにび）色」を採用しました。この色は、旧橋の青色系を踏襲し、背景の立山連峰を引き立て、重厚でどっしりとした印象を与えています。

また、歩道にはバルコニーを片側2箇所、橋詰めには人がたまれる広場を配置しました。

2) 高欄デザイン

高欄は地場産品のアルミ製としており、パネル部は神通川に吹く風の透過率を抑えたパンチングメタル仕様としています。また、支柱間にはガラスパネルを設置し、「ガラスの街とやま」を演出しています。

このガラスパネルには近隣の小学生が製作したガラス玉を取り付けており、ひとつひとつ異なるデザインが、歩行者の目を楽しませてくれています。

なお、夜になるとガラスパネル上部に取り付けたLED照明により、ガラス玉が彗星のように輝いてとてもきれいです。



橋詰の広場



バルコニー



4 開通式

開通式は、地権者の方々をはじめ、石井富山県知事、国土交通省、国会議員、県議会議員、富山市長、工事関係者及び地域の方々など約600人が出席し、平成24年3月24日に富山大橋左岸側で盛大に執り行われました。

式典では、主催者を代表して知事が式辞で地元の皆様や工事関係者にこれまでの感謝を述べ、続いて来賓の方々から富山大橋開通により安全で円滑な交通確保されるものとの祝辞をいただきました。

その後、テープカット、そしてわたり初めを行いました。

また、地元中学校の吹奏楽部の演奏や地元町内会による獅子舞が披露され、開通式の日を盛り上げました。

5 おわりに

事業を進めるにあたり、事業に賛同いただき大切な用地をご提供いただいた地元地権者の皆様、多大なご支援ご協力をいただきました国土交通省、富山市、富山地方鉄道等関係機関の皆様、高い技術力を持って工事を実施された施工業者の方々に厚く御礼申し上げます。

開通した新しい富山大橋が、旧の橋同様に県民のみなさんに末永く親しまれ、愛されることを期待しています。



災害時にも安全・安心な道路の役割を考える 受援力と支援力を繋ぐ「道」づくり！

若 林 和 枝



先日、3年に一度開催されている北陸道路舗装会議の打ち合わせ会議へ出席してきました。

我が国においての過去の大規模災害から、国土交通省や関係団体が行った、支援や道路整備の重要性について報告されました。

その中で知ったことは、2011. 3. 11 東日本大震災での北陸地方整備局と東北地方整備局が連携を図ったテックホースやリエゾンの展開です。また、道路、土木、建設業界の連携により、災害時のライフラインである道路の啓開から応急復旧が迅速に行われたことや、土木、建設業界の戦士の方々の使命感を持った、現場での厳しい作業や「くしの歯作戦」についての報告がありました。更に同関係団体の尽力で仮設トイレを東北方面に手配、数百基を緊急支援した実績等を伺って、素晴らしいと感じました。これまでも中越地震や能登半島地震、中越沖地震に於いても仮設トイレやAEDの寄贈などの実績があることも知ることができました。

くしの歯作戦については、初めて聞く言葉でした。より早く、広く、安全、確実に支援の手が被災地の人々に届くようにと考えられた作戦です。それは内陸から沿岸地域に向かって、くしの歯のように道を啓開させていくという作戦でした。一般市民へマスコミによって届けられる情報とは違った厳しい現場の情景が思い

浮かびました。

また、道路の啓開作業の現場で、妨げになった津波による多くの人命と瓦礫、これが作業を難航させました。瓦礫の撤去作業が大きな課題となっていたことや、現場での過酷な作業として、住民への説得があったことなどが生々しく伝えられました。人命救助はまず道の確保からということの説明するが、住民は「瓦礫の中の家族（御遺体）を想う」「重機で瓦礫を崩すのは、やめてください」と言われる「しかし、一刻も早く作業をすすめ、一人でも多くの人命を救いたい」何度も説明させていただく中で、住民の方の苦渋のご理解をいただきながらの作業であったそうです。

そして作業は何度も中断を余儀なくされました。御遺体が発見される都度、自衛隊・消防・警察の方々との連携をしなければ進まない作業でもありました。

多くの難題を克服しての現場での作業は困難を極めるものであったようです。

3月11日から二日目の13日の早朝、私どもが福島県へ支援に向かった際、磐越道は既に応急復旧が進んでいました。福島県の中通り地域に差し掛かると道がデコボコになり、走っている車が左右に大きく揺れるが無事に通ることができました。まちを見渡すと至る所の屋根瓦が崩れており、地震の被害の大きさが伝わってきました。応急復旧の車両も作業中であったが、片側が通行できるようになっていました。その日から何度も浜通りの国道6号線沿いの多くの避難所に支援物資を運び続けました。それは道路啓開、復旧作業にあたられた関係者のみなさまの血の滲むような御苦勞があつてのことでした。応急復旧が迅速になされたからこそ、多くの人命を救うことができたのです。私は、改めて道路が果たす、役割の重要性を痛感いたしました。

た。

NPO活動の一環として、約7年前より日本風景街道（シーニックバイウェイ）の一つである、よりみち街道『中越』クラブ活動へも積極的に参加をしてまいりました。

中越地震や中越沖地震の体験を通じて、まちづくりの大きな柱となる道の整備計画などに興味を抱いて参加してきております。一番興味を抱いたことは、市民が望む道づくりに国が考え方をシフトしてきたという話である。今までの道づくりの計画は、一般の市民が知るまでも無くいつの間にか計画され完成してきた。そんな中で耳にした「市民が望む道づくりを目指す」という内容に、わくわくしていました。折しも、その頃中越地震で、待っているだけでは、何も変わらない。市民が出来ることを努力していこうと、賛同してくれる人たちに呼び掛け、NPO法人を立ち上げ活動を始めた頃であったから、世の中は捨てたもんじゃない、わかってくれる人は必ずいるものだ、と勇気がわいてくる気がいたしました。

よりみち街道『中越』クラブに参加したことによって、新たな道が計画されたということはありませんが。一つ言えることは、道に携わる多くの関係者の方々の出会いから、活きた情報を得ることができているということでしょうか。また道を通じて地域独特の魅力ある人や風景、生活文化、歴史などをPRする機会も得ることができております。

中越地域に於いて、培った災害時の「支援力」は、この度、東日本大震災でも大いに役立てられました。支援者は（国、県、市町村、企業、団体、医療関係者、等）十二単のような形で重なり合って成り立っているのだということも分かりました。

また、日常生活の中での「人と人のつながりの大切さ」や、「ご近所の助け合いの大切さ」など改めて感じることができました。人はあまり強くないものですが、助け合うことで困難を乗り越えることができると感じております。支援する側の「支援力」、支援を受ける側の「受援力」を結んだのは「道」でした。道が機能したからこそ救われた命が沢山ありました。まさに道は「命の大動脈」と言えるのではないのでしょうか。

国民の努力で補いきれない、ステージで展開される道づくりに関しては、関係者が知恵を出し合い「災害時に強い安全、安心な道づくり」を着実に迅速に進めていただくことを願うばかりです。

そして、首都直下型の大規模地震や東海、東南海、南海地震や火山噴火、竜巻などの不安の高まりもあり、災害に強い道づくりへの対応が望まれています。

また、コンクリート構造物の耐用年数に関して、専門家からの情報によると国民の理解が進んでいないために予算化出来ずに橋の崩落など、国民は命の危機にさらされているということ、あまり知らないようです。国民は危険な橋や、道であることを知らずに毎日利用しているのです。国民一人一人が、分かりやすい情報発信をしていく必要性を感じずには居られません。子供達の未来を支えていくためにも伝えていかなくてはならないのではないのでしょうか。

今、私たち国民も、守るべきもの、そして伝えていくべきこととは何か、様々な視点から結論を出していく必要があるのではないのでしょうか。

多くの人たちが利益を共有してこそ公共という考え方からも、道はすべてに通じるものと言えるのではないのでしょうか。

最後に、この度の東日本大震災で道路啓開、復旧に携わった全ての関係者及び私達NPOの支援活動を支えて下さったみなさまに心より感謝申し上げます。

プロフィール

若林 和枝

NPO法人 おぢや元気プロジェクト 代表

心の駅事業 こども元気フェスティバル 里山再生よりみち大学
被災地支援 中越沖地震 東日本大震災支援中(福島県いわき市・南相馬市・その他)

過疎地域活性化・まちづくり団体支援・婚活事業・若者支援
日本防災用品研究会 (屋内型 非常用防災倉庫・防災用トイレ・
防災ヘルメット・等、多数企画提案中)

元気が出る講演会 演題「人と人 心と心の繋がりを大切に」「東
日本大震災から学ぶまちづくり」「支援力・
受援力」「食育 おばあちゃんの常備食」

良寛さんに学ぶ

全国良寛会会長 長谷川 義明

良寛さんといえば多くの人が、子供達と一緒にてまりをついて遊んだお坊さんというイメージをもって居られることでしょう。そしてそのお坊さんのどこがそんなに偉い人なのかということについて、なかなか説明が出来なくて困ってしまうということを良く聞きます。



実際良寛については、その書や歌あるいは生き様に、夏目漱石、正岡子規、斉藤茂吉など錚々たる人々らがこよなく憧れていたとか、川端康成がノーベル賞の授賞式のスピーチで良寛の歌を紹介したり、會津八一が数千年に一人の書家であると評価し、江戸時代唯一の国の重要文化財となる書を書いた書家であることなど、人々には案外知られていないようです。

文化勲章受賞日本画家である安田靉彦氏による良寛像はもっとも良寛の実像に迫っているものではないかと評価されておりここに添付いたしました。背も高く、

耳も大きかったようですが、生涯を乞食行脚僧として過ごし、厳しい修行の精神を忘れなかった良寛の、自己への厳しさ、周りへの優しさ、そして悟りの境地に達していたと思われる無私、無欲の人物像が良く描き表されているように思います。

良寛（1758～1831）は出雲崎の名主 山本家の長男として生まれています。生まれながらにして名主を継ぐべき家柄の生まれということになります。そして活発に行動するというよりも静かに一人での読書を好むような子供であったようです。13歳から18歳まで地蔵堂の漢学塾に下宿をしながら学んでおり、論語など漢学の素養はしっかりと積んだようです。

18歳の時に出雲崎に帰り、一旦名主見習いに就任します。しかし仕事が性格的に合わないということもあったようで、領民をかばうべき立場にもかかわらず、代官と住民との利害の調整がかなわず、むしろ対立を拡げてしまうなどの事件があったり、領民の処刑の現場に立ち会うなどのつらい事件もあったようで、間もなく家出をしてしまい出家の道へと進むことになりました。これら出家への動機は推測の域を出ませんが、18歳で家を出て出雲崎の光照寺に入った事は確かのようなのです。

22歳の時に岡山県倉敷市玉島の、曹洞宗 円通寺の住職 国仙と光照寺にて出会う機会を得て、本格的修行の道に入ります。そして約12年の円通寺での修行は大変厳しいものであったようですが、良寛の仏道への真摯な求道僧としての基礎が培われた時期でもあったといえましょう。



平成22年（2010年）は良寛没180回忌に当たりましたが、この年の全国良寛会総会は比叡山延暦寺において開催されました。天台宗総本山である延暦寺において良寛の180回忌法要が営まれたわけですが、良寛の仏教僧としての仏道への貢献が天台宗総本山において高く評価をされたということであり、実に画期的な年になったと思います。

良寛は曹洞宗の開祖道元（1200～1253）を深く信奉しており、道元の著した大変難解な「正法眼蔵」95巻などを良く学び、それぞれの巻名を間違いなく書くことが出来たといわれて居ります。そして良寛は釈迦やこの道元の教えの実践者であるというところにもっとも特色があるといえるでしょう。

すなわち、「山中独居」、「乞食行脚」、「只管打坐」の行を終生守りとおした僧であるといえると思います。

山中に独居するとは実に厳しい生活です。自分のことは自分でする、自立の生活です。標高約300メートル程度の国上山の中腹にあった五合庵などに39歳頃から69歳までの約30年間を過ごしています。良寛は円通

寺での修行の後、近畿、四国などを行脚したようすが詳細はわかっていません。しかし西行法師の生き様にも学んでいたようで、吉野山の奥千本にある西行庵にもその旧跡を訪ねていますが、西行庵は五合庵そっくりの佇まいであります。良寛が五合庵を好んで住んでいたということも相通ずるものがあるように思えました。

6畳一間程度の狭い庵で、炬が切ってあったようですが、良寛の漢詩に竹の柱に菰の窓というような表現もある、粗末な建物でした。さぞかし冬の寒さは大変なことだったろうと想像されます。山で薪を拾い、谷川で水を汲むという生活です。食物は里に出て家々を回って乞食に頼るわけですが、約150メートルの山道の上り下りは高層マンションの50階に相当する高さですからその大変さが想像されます。大根菜など簡単な野菜は育てて居られたといわれますが、味噌なども自分で作って居られたようです。味噌の出来が悪かったので少し分けて欲しいなどの手紙が残されています。万事質素な、まさに清貧な生活をして居られました。書道の練習も砂の上に書いたり、空中習字で工夫されたわけです。中国唐時代の懐素、日本の小野道風などの古典の書をしっかり学んだことが知られています。

乞食行脚はさらに厳しい生活態度です。鉄鉢の「はちのこ」をもって乞食を行います。貧富の差無く一軒一軒を回って食を乞い、頂いたものだけで一日を暮らすという。少しの日には少しだけで、もらえない日には食べないということになります。これは釈迦の教えそのもので、食を頂いて法施を行い、やがて人々が喜んで布施をしてくれるような人物になりなさいという教えのようです。初めのうちは子供達に石をなげられるというような経験もして居られますし、何日か食べるものが無いというような経験もされているようです。庵に食料をためる事無く、多く頂けば人に分けてあげるといふ暮らしでした。乞食行脚の生活を続けるとは実に厳しいものだと思います。冬の寒さの中炬の



残り火で暖をとり、雪道にも乞食をして歩くとは大変な強い意志の表れといえましょう。

五合庵に入られてからも會津や米沢への旅もしておられますが、神社の軒先や野宿をしたりして乞食行脚の旅をされたのでしょうか。そのような厳しい生活しながらも大変美しい和歌や漢詩を残して居られます。そのあくまでも強く、美しい精神に感銘を受けます。

^{ひたすら}只管坐禅をすることはまさに曹洞宗の開祖道元の教えに沿うものです。道元が宋での修行から帰国して1244年に福井の永平寺を開山して始めた曹洞宗は坐禅宗ともいわれるほど坐禅を大切にする教えです。良寛が修行した岡山県倉敷市玉島にある円通寺はこの曹洞宗の名刹で良寛を出雲崎から帯同した国仙和尚もまたこの曹洞宗の名僧でありました。良寛は素晴らしい師に恵まれたといえます。ここで道元の正法眼藏など道元の思想を厳しく学びました。そして僧侶としての進むべき道についての指導を受けたのでしょうか。この時代に関する良寛自身の「円通寺」と題する漢詩には朝早くから参禅して厳しい修行に励んだ様子が書かれています。そして僧は清貧でなければならないと当時の宗教界の墮落を嘆いています。江戸時代末期に幕府のとった寺請檀家制度によって住民管理の一翼を担うことになった寺院のありように仏教界の墮落を見ていたのだ

と思います。

良寛は畳の上ばかりでなく、屋外のどこに居ても坐禅をしていたようです。亀田鵬斎が訪ねてきたときも客が待っていることも忘れて松の根元で坐禅をしていたというような逸話も残っています。常に心の清浄を保つことを心掛けて居られたのでしょうか。

霞立つ 長き春日に 子どもらと
てまりつきつつ けふもくらしつ

こどもらと てまりつきつつ この里に
遊ぶ春日は 暮れずともよし

良寛は約1300首にも及ぶ和歌を残しています。万葉調の自然の移ろいなどを讀んだものが多いのですが、この2首は子供と一緒にてまりをついて遊ぶことが楽しくて仕様が無い、てまりをつける春が待ち遠しくて仕様が無いという純な気持ちが良く出ていると思います。

実際良寛は^{ぜんまい}薇の綿を木綿の糸で巻いて作った自作のてまりを持って里のこどもたちと良く遊んでいたようです。そして てまりをついて自分にかなうものは居ないよという漢詩も残して居ますから、この てまりつきにはかなり積極的な意義を見出していたと思われる。まだゴムの無い時代ですからこのようなまりが工夫されていたのでしょうか。思った以上に良く弾みますがなにしる工業製品と違い てまりの部分によっては弾み方も均一ではありませんし、道路のほうも現在のように平らに出来ているわけではありませんから、不規則バウンドが多い状態です。それをひいふうみいよおとついでいくわけですから相当に腰が柔軟で、かつ腕力もかなり強かったことだと思われます。そのことは良寛の書道の作品の流麗さを作り出す上でも有利に働いているように思えます。

この子供達とてまりをついて遊んでいた良寛の心について、少し時代の背景や地域の実情などを考えてみ

ると、矢張り良寛の地域の子供達への深い悲しみと愛情を感じ取ることが出来るように思います。すなわち、国上山周辺は蒲原平野の中であって信濃川流域の低湿地帯の農業が行われていました。河川の堤防も無く、分水事業も行われていませんから、毎年のように流域の彼方此方で水害が発生し、「田植えあれども 稲刈り無し」といわれたり「水のみ百姓」といわれるような厳しい耕作状況でした。機械化もしていませんから、田植え、田の草取り、稲刈りなど皆手作業の重労働でした。一旦洪水など水害が発生すれば収穫の無い農家はたちまち大変な経済状況となります。そもそも小さい水田しか持たない農家にとっては次男、三男に分けてやるほどの余裕農地はありませんから相続は長男に限られます。女子の子供はお嫁に行かなければ、力仕事の農作業の手伝いも不十分で「穀つぶし」などと言われていました。これに災害が加われば大変なことになる。女子は買われて街道の宿場宿場の飯盛女になったり庄屋さんなどの女中などになったことでしょう。男子は出稼ぎに他国へ行くか、庄さんの下男や作男となって僅かに食い扶持をもらうような仕事に就いたことでしょう。

南区にある江戸時代からの大庄屋であった笹川邸を見ると、これら下男や作男の部屋や女中たちの部屋が残されています。地面からすぐに床となるような低い床にむしろを引いて窓の無い薄暗い板敷きの十畳程度の部屋に十人という混雑度で生活をしていたようです。働き口があるのは良い方でしょう、一般には商売の丁稚奉公か下男、作男、他国への出稼ぎなどとなることでしょう。

女中部屋は狭いはしごのような階段を登ってうすべりを引いた天井の低い部屋になりますが、作男が上らないように、はしごははずせるようになっていたようです。それでも食事が出来るということは恵まれたほうだったことでしょう。三国街道群馬県側の街道の宿場宿場には飯盛女として働き、若くして死んでいった娘達の無縁墓のようにになっている越後の娘達の墓が多

く残されています。

良寛には今ここで てまりをついて一緒に遊んでいる子供達も明日はどうか分からない、厳しい生活状況にあるということは理解していたことでしょう。せめて今このひと時を楽しみ思い出になる時間として楽しくすごしてやりたいと思われたことでしょう。

良寛のてまりつきもその時代背景や地域実体の背景を考えると、良寛が子供達と同じ気持ちになって子供と一緒に時間を過ごし、子供達に貴重な思い出と生き甲斐さえも与えていたのではないかと思われ、まさにこれは良寛が目指していた相手と同じ気持ちになって理解する「同事の行」として過ごして居られたのだと思います。子供達にとっては本当に同じ気持ちで遊んでくれて、同時に文字や良いお話も聞かせてくれる優しい大人だったのだと思います。

「猫ひろし 残念！カンボジア？」

中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎 康裕

皆様もご存知の事とは思いますが、5月連休明けにタレントの猫ひろし（本名：瀧崎 邦明 34歳）さんのオリンピック出場が消滅致しました。昨年10月にカンボジアの国籍を取得し、カンボジアのマラソン代表に選ばれていましたが、国際陸上競技連盟が資格を満たしていないとの判断でオリンピック出場が消えたのです。様々なご意見があるとは思いますが、私自身は、楽しみにしていました。残念です。そこで注目のカンボジアについてご案内致します。

【カンボジア？】

北側に「タイ」「ラオス」、東側に「ベトナム」、南西側に「南シナ海」に囲まれた王国で「世界遺産アンコール遺跡群」がある事で有名です。また、通説としてかぼちゃ（南瓜）の名前の由来とも言われています。私も何度か行きましたが結構不便な場所です。一般的には、ホーチミン（ベトナム）経由かバンコク（タイ）経由となります。査証（VISA）も必要となります。気候は、熱帯で一年中高温多湿、4～10月までが雨季となります。

カンボジア人は、甘いものを好むらしく、コーラなどが日本に比べて甘い感じがします。食事関係は、米と魚が基本で結構あっさりしています。但し、一般的なレストランや屋台は、衛生状態が良いとは言えませんのでお気を付けてください。

【カンボジアの観光】

多くの観光客が訪れる場所として「首都のプノンペン」と「世界遺産アンコール遺跡群」を紹介致します。

プノンペン

フランス植民地時代に建築した美しい街並みがあ

り、「東洋のパリ」と言われています。プノンペン市内の観光には、「王宮」「銀寺」「国立博物館」などが一般的な観光と歴史の暗らい部分の観光があります。それは、ポルポト政権下で高校の校舎を刑務所として利用した「トゥールスレン博物館」や処刑場として利用された「キング・フィールド」があり、その当時の凄惨な状況を垣間見ることが出来ます。

世界遺産 アンコールワット遺跡群

プノンペンから250kmにある「シエムリアップ」と言う町が遺跡群の拠点となります。9～15世紀頃のクメール王国の首都遺跡群を観光する事が出来ます。時間をかけてじっくり見る場所なのですが時間が無い方は、「アンコール・ワット」「アンコール・トム」「プノン・バケン」の3箇所は、訪れてください。

アンコール・ワットは、遺跡群を代表する石で作られたヒンズー教寺院跡で国旗に描かれているカンボジアのシンボルです。アンコール・トムは、一辺3kmの堀に囲まれた広大な都城跡です。プノン・バケンは、60mほどの丘の上にある寺院跡です。この場所は、アンコール・ワットの夕日が美しく見えるビューポイントです。

この他にも世界遺産に登録されている遺跡が多く、時間をかけて観光すると新しい発見があるかも知れません。



プノンペンの町並み



上：国立博物館

下：王宮



国立博物館



プノンペンにあるフランスからの独立記念塔



トゥールスレン博物館



アンコールワット この階段は、怖い！！



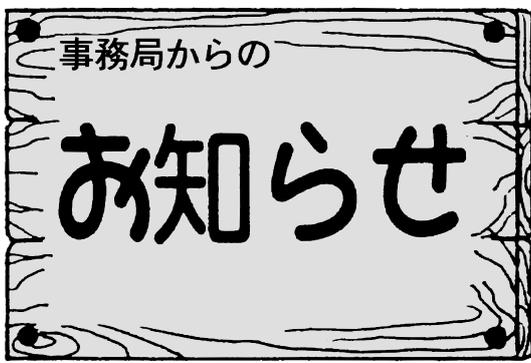
アンコール・トム 南門四面仏像



アンコール・トム



上：プノン・バケンからの夕日
下：アンコール・ワット



平成23年度 新潟県土木部との 意見交換会の概要

対外活動部会・新潟地域委員会

■日時：平成24年2月1日(水) 15:00~17:00

■場所：新潟東映ホテル 2F 朱鷺の間

■出席者：

【新潟県】河内技術管理課長、斉木道路建設課長、
田辺河川管理課長、丸山河川整備課長、
阿部都市政策課長、小林新津地域整備
部長、佐野長岡地域整備部長、大野村
上地域整備部長

【協会】小野塚新潟地域委員長、阿部・上田・
船谷・中俣・山岸地域委員
高田運営委員長、大平・涌井運営委員、
田辺総括部会長、横山技術部会長、青
木広報部会長、高橋事務局長

■配布資料：会議次第（席次表）、会員名簿

■挨拶要旨：

◎小野塚委員長

- ・豪雪対策本部立ち上げという御多忙の中の出席に対するお礼。
- ・当協会に対しての力強い支援に対するお礼。
- ・建コン北陸支部の概要 [3 県（新潟、富山、石川）61社、新潟11社] 説明
- ・昨年1年間の振り返り、その対応に対する労をねぎらう。
- ・当協会も災害協定に基づき災害対策本部を立



北陸支部

ち上げた当協会の対応を説明充分責務を果たしたと思っております。

- ・当協会の最近の課題説明と協会としての要望を説明お願いしたい。
- ・当意見交換会も平成16年に始め、今回で8回目。多くの要望課題について前向きに改善、解決をして頂いたことに対する謝意の表明。
- ・今後とも良きパートナーとしてのお付き合いをよろしく願います。

○河内技術管理課長

- ・豪雪対策本部設置のため、土木部長はじめ6名の欠席に対するお詫び。
- ・例年は秋頃の開催が7月の豪雨のため今回になった。
- ・課題について本音で話し合い、明日につながる意見交換会になる事を願う。



新潟県

■意見交換概要：

1. 土木部予算について

(1)平成23年度予算の概要と執行状況

- ・予算に占める設計関係の予算額、シェア等

平成23年度県土木部の予算編成について（説明：河内技術管理課長）

- 【基本方針】 ①県民のくらしと命を守る災害に強いふるさとづくりの推進
 ②自立した活力のある地域づくりの推進
 ③地域を支える建設産業の振興

当初予算前年度比5%削減となっているが、23年度当初と22年度補正を一体とした切れ目のない対応を図っている。

- ・一般公共事業緊急地方道整備事業、補正を合わせて535億 対前年比109.7%
 - ・県単公共事業 150億 対前年比115.5%
 - ・維持補修系事業 91億 対前年比120.0%
 - ・建設系事業 56億 対前年比110.0%
- 執行状況 土木部：上期目標80% → 土木部7割
 11月末 73% (内委託費 概算89億 契約済み56億 (63%))

(2)一連の災害関連の総額、これからの発注見通し

- ・委託関係 特に関連、助成含む業務の見通しについて (説明：田辺河川管理課長)
- 【7月豪雨災害】 全体・・・2700ヶ所 490億
 県・・・1850ヶ所 420億
 市町村・・・850ヶ所 70億
 順次発注予定 1/3発注済み(河川)

【改良復旧】助成6ヶ所 (7河川) 510億 } 530億強
 関連2ヶ所 (2河川) 砂防等 23億

【委託費】37億 (測量11億、地質調査4億、設計22億)

(3)平成23年度 1～4次補正予算の全体像

- ・県土木部関係の補正の内容
- 【国全体】 1～4次補正 20兆6511億
- 【県土木部】 1次補正 5億 (国費ベース)
 3次補正 20億 ()
- 【投資事業】 6月補正 9億
 知事専決602億 (公共100億 県単28億 補助災害473億)
 9月補正 12億 (公共11億)
 12月補正 165億 (公共163億)
 合計 787億 ※2月補正はまだ

(4)補修系の点検、設計関係の今年度の概要とこれからの動き (各施設)

	橋 梁	トンネル	シェッド シェルター	舗 装	防 災
23年度	0ヶ所	62ヶ所	48ヶ所	約2,500km	集計まだ
24年度	140ヶ所	31ヶ所	50ヶ所	約2,500km	集計まだ
全 体	約3,830ヶ所	183ヶ所	350ヶ所	約5,400km	約1万ヶ所

【橋梁点検】点検サイクルに基づき、計画的に継続する。

【トンネルシェッド】24年で初回点検完了。点検サイクルを検討したい。

【舗 装】24年で初回点検完了。点検サイクルを検討したい。

【防 災】初回完了後は定期的には行わない。

(5)平成24年度予算の方針・傾向について

24年度当初予算編成方針は、震災・水害からの復興を進めると共に雇用の創出、企業経営の安定、県民生活の安定を基本方針として予算編成を進める予定。

土木部も水害からの復旧復興を最優先に安全安心して暮らせるため諸予算の確保に努めたい。

2. 地域調達について

(1)「地域企業育成条例」に対する土木部の取組状況

- ・H19年10月施行の「新潟県中小企業者の受注機会の増大による地域産業の活性化に関する条例」の主旨を踏まえ可能な限り県内業者に発注している。
- ・委託関係は250万未満までは6社、250万以上700万未満は8社、700万以上は10社指名としている。

(2)工事請負・設計委託における県内企業、県外企業別受注状況の最新の推移

県内企業調達率の推移

	19年度	22年度	H19→H22
件 数	68.6%	80.9%	12.3%
金 額	57.6%	67.4%	9.8%

		H18	H19	H20	H21	H22	H23 (11月末)
工 事	件数	94.7%	94.8%	95.0%	95.5%	95.9%	96.9%
	金額	83.0%	89.9%	91.8%	92.0%	91.5%	96.5%
コンサル	件数	68.9%	68.6%	73.4%	75.3%	80.9%	73.0%
	金額	60.0%	57.6%	62.5%	65.1%	67.4%	62.2%

・工事に比べコンサルの比率が低い理由

1. 県内業者の数が少ない。工事は8割・委託業者は2割強
2. 専門性の高い業務については県内業者では対応出来ない業務がある。
- ・国、市町村へも条例の主旨を踏まえ県側から働きかけをお願いしたい。

3. 入札・契約制度等について

(1) 落札率の最近の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23 (11月末)
委託落札率	89.9%	89.3%	87.9%	90.8%	93.5%	93.8%

【工事】 H22：93.7% → H23：94.7%

H23年度当初から最低制限価格を91%に上げた。

(2) 入札制度の今年度の改正について

- ・見積り歩掛、見積り単価の非公開と予定価格の決定について及び決定方法の公表について

【非公開のねらいは】 ①工事にいくじ引き入札が多い
 ②経営上での見込みがたない
 ③社運を天に任せるのには納得がいかない

苦情が多く有り、非公開によりいくじ引き入札が少なくなるようにした。

【採用歩掛等について】

原則が一番安いもの。異常値と判断されるものは排除する事としているが、現状を良く把握して行う必要有りとしている。

※工事と違い委託は見積りでの発注が多い委託内容的確な指示等をはっきり理解してもらう必要がある。
 くじ引き入札率

	22年度	23年度	23年度変更後
工 事	16.5%	13.7% (4~11月)	3.8% (11~1月)
委 託	9.5%	10.6% (4~11月)	3.7% (11~1月)

(3) プロポーザル方式・総合評価方式について

プロポーザル県内

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
件 数	3件	3件	5件	6件	未集計

土木部では過去5年間で9件 総合評価なし
 全国で総合評価を導入している都道府県数[21年度：10県、22年度：15県]
 新潟県でも準備はしているが来年度実施するかどう

かは未定。

実施するとすれば災害に関連しない整備部で1~2件程度、技術管理課主導で実施予定。 ※慎重に導入してほしい要望

4. 業務の円滑な執行について

(1) 片務性の解消について

機会ある事に片務性については話をしている。

委託に関して2/14小野塚委員長より講演をお願いしている。

(2) 災害時の協力体制と問題点

土木部と協会で意見交換会を12/22実施

日程がタイト・マンパワー不足・災害の取り方がよくわからない等有り。

ルール作りや研修等を実施して行きたい。

(3) 繰越制度の確実な実行について

繰越制度については適正に運用しているつもりであるが、要望の趣旨を踏まえ、今後も適正に運用したい。

業務の平準化を品質確保の観点から確実な実行について改めて要望。

5. 各地域機関の現況と課題・情報提供

(長岡) 災害対応のお礼 復旧工事は8割方発注済み。

改良復旧関係の工事は夏以降に発注予定。

災害時のマンパワー不足を痛感。地元中小企業の生き残りに苦勞。

(新津) 地域の建設業をどう維持するかが課題。

新規事業掘り起こしのため五泉地域の道路等の見直しを行っていききたい。

最後に高田運営委員長より有意義な議論に対してのお礼。また一つ一つ課題解決のため実施して頂いた事にお礼を述べ終了する。

独占禁止法等コンプライアンスに関する講習会

広報部会

日時：平成24年2月16日

場所：興和ビル 10F 第5会議室
新潟市中央区新光町6-1

講師：

「独占禁止法及び関連諸法について」

(社)建設コンサルタンツ協会
独禁法に関する委員会実行委員会
重松 伸也 氏

「建設コンサルタント業の職業倫理について」

(社)建設コンサルタンツ協会
職業倫理啓発委員会
川村 栄一郎 氏

北陸支部で恒例となっている「独占禁止法等コンプライアンス」に関する講習会が開催されました。今年度は会員各社から約60名が参加しました。

例年の講習会は、会員外部の講師による独占禁止法の法令についての話でしたが、今回は協会本部より講師をお招きして、協会の独禁法に関わる活動状況及び協会技術者のためのコンプライアンスの手引きの紹介について、約2時間にわたり講義をしていただきました。



1. 「独占禁止法及び関連諸法について」

建設コンサルタンツ協会（以下 協会）の独禁法に関わる取り組みについて説明がありました

平成3年に協会のコンプライアンス・倫理要領を制定（H7改訂）し、品質の維持、専門技術者の権威保持、中立・独立の堅持、秘密の保持、公正かつ自由な競争の維持を掲げ、独禁法に関する委員会及び職業倫理啓発委員会を立ち上げています。

平成4年・平成11年の協会会員も関連した事件を受け、協会では独禁法遵守の周知徹底（遵守マニュアル第1版H4）、「独禁法遵守のための行動計画」

（H11年制定）を策定しました。

独禁法に関する委員会の活動は以下の通りです。

①独禁法改正に向けての動向調査

「独占禁止法遵守マニュアル」第5版
（H22. 4作成）

②制裁処置の動向についての調査

「地方自治体の独占禁止法等の違反に関する制裁措置」H23協会HP掲載

③コンプライアンスプログラム事例集の作成

「新たに策定及び改訂を計画している会員へプログラムの構成、社則等を事例として提示」H22. 3配布

④「行動計画の見直し」H23. 5改訂

見直しの基本方針

1)対象を従来の営業部門に加えて技術部門を追加

2)独禁法その他「発注者との適正な関係の確保」の視点を新たに追加

⑤会員企業での社内講習会資料の作成

2. 「建設コンサルタント業の職業倫理について」

「建設コンサルタント技術者のためのコンプライアンスの手引」の紹介がありました。

手引きには建設コンサルタント技術者の倫理として

以下の9項目を掲げ、建設コンサルタント技術者としての社会的責任と公共的使命を認識する必要があります。

- ①自らの専門とする技術領域において専門とするサービスを提供する
- ②専門家としての考え公にする場合には、客観的かつ真実に即して表明する
- ③依頼者と緊密な信頼関係のもとで誠実な理念に則り、法令を遵守し、公共の福祉のために依頼者の適正な利益を保護する
- ④法令を遵守し公正に競争する
- ⑤他社と利害関係が生じる場面においては、確固たる信念と誠実さをもって解決をはかる
- ⑥専門家としての責務を全うできなくなるような事態を、信念と勇気をもって回避する
- ⑦技術成果の権利を正当に帰属させ、他人の権利を侵さない
- ⑧提供するサービスの正当な価値を高め、専門家としての研鑽・努力を欠かさない
- ⑨専門家として広く社会に貢献するため、市民団体、学会、社会等の活動に積極的に参加する

なお、協会技術者の方は、コンプライアンスの意識向上のため、「建設コンサルタント技術者のためのコンプライアンスの手引き」（平成23年7月）を一度読んでみてください。

「雪の音」発刊のお知らせ

当支部の会誌「雪の音」については、年4回（5、8、11、2月）発刊してきたところですが、諸般の事情により、平成24年度より、年3回（6、10、2月）発刊いたしますので、ご理解願います。

平成24年度（第30回） 北陸支部通常総会

事務局

平成24年度総会は、去る4月25日(水)ホテルイタリア軒において開催されました。

総会は、出席会員の確認、総会成立宣言に続き寺本支部長の挨拶がありました。



寺本支部長の挨拶

その後議長から、議事録署名人の委嘱をおこない議事に入りました。

議長 支部長 寺本 邦一



議長 寺本支部長

議事録署名人

東京コンサルタント(株)

新潟支店長 若林 修 様

(株)長大

北陸事務所長 川端 博文 様

議事の審議は、出席会員のご協力により

第1号議案 平成23年度事業報告（案）

第2号議案 平成23年度決算報告（案）

監査報告 新保監事より報告

第3号議案 平成24年度事業計画（案）

第4号議案 平成24年度予算（案）

第5号議案 細則の制定（案）

が承認されました。



会場の様子

今年度は、北陸支部創立30周年を迎える節目の年にあたることから、総会終了後記念講演会、記念式典等が開催されました。

○30周年記念講演会

講師 京都大学大学院工学研究科

教授 藤井 聡 氏

演題 「列島強靱化論 ～インフラ整備による北陸大交流圏の形成～」

○30周年記念式典・祝賀会

平成23年度 受注実態調査集計結果報告

広報部会

表 - 1 月別受注高および部門別受注高

月別受注高

上段は前年度比、又は前年同月比
下段は受注高(単位: %、百万円)

調査部門	発注機関	平成22年度	平成23年度												合計				
			4月	5月	6月	計	7月	8月	9月	計	10月	11月	12月	計		1月	2月	3月	計
全体	国土交通省	-33	33	101	54	43	-6	7	68	20	-21	-48	63	-18	-43	232	11	12	18
		6,525	1,973	345	724	3,042	726	751	981	2,458	413	342	434	1,189	162	242	608	1,012	7,701
	国土交通省その他	-35	32	-51	89	-2	-75	-47	-67	-62	-1	23	335	27	130	-75	18	42	-19
		974	132	51	36	219	28	83	55	166	173	114	74	361	23	1	20	44	790
	その他の機関	-9	-68	-47	13	-6	-38	32	-85	-55	-44	-89	-78	-72	800	-82	2,564	671	25
		443	7	8	120	135	36	29	14	79	14	4	5	23	18	5	293	316	553
	県	-11	4	8	26	16	82	-13	4	21	-26	5	85	14	95	104	59	85	30
		7,643	299	530	986	1,815	1,441	841	929	3,211	584	767	978	2,329	735	1,003	811	2,549	9,904
	市町村	-5	13	9	28	31	48	-25	32	16	-18	-38	-30	-27	-44	47	-51	-19	6
		4,976	527	614	963	2,104	888	468	500	1,856	389	211	223	823	171	271	70	512	5,295
民間	4	30	26	-57	-10	53	29	40	40	24	-38	-33	-15	22	-28	-57	-42	-9	
	3,509	480	281	212	973	362	347	328	1,037	307	150	154	611	168	76	313	557	3,178	
計	-16	27	32	13	22	32	-6	20	15	-19	-23	38	-7	15	75	9	26	13	
	25,308	3,620	1,905	3,092	8,617	3,543	2,680	2,903	9,126	2,002	1,708	2,043	5,753	1,385	1,652	2,167	5,204	28,700	

注) 「国土交通省」: 旧第一港湾建設局分を含む
「国の機関(A)」: 裁判所・国土交通省を除く各省庁、国立病院、国立大学、その他の国の機関
「国の機関(B)」: 旧日本道路公団等の各公団・日本下水道事業団等の各事業団、首都高速道路交通管団、住宅金融公庫等の各公庫及び、日本銀行・日本開発銀行・日本輸出入銀行・農林中央金庫・商工組合中央銀行(以上5行)
(建設コンサルタンツ協会北陸支部が行った受注調査による)

部門別受注高

上段は前年度比、又は前年同月比
下段は受注高(単位: %、百万円)

調査部門	発注機関	平成22年度	平成23年度												合計				
			4月	5月	6月	計	7月	8月	9月	計	10月	11月	12月	計		1月	2月	3月	計
設計解析等	国土交通省	-32	41	150	44	49	2	-1	84	24	-12	-38	39	-11	-40	305	20	17	25
		5,266	1,772	303	610	2,685	610	578	871	2,059	350	268	347	965	130	158	561	849	6,558
	国土交通省その他	38	53	-89	74	-20	-80	-56	-40	-59	-21	886	317	43		-75	-50	60	-19
		664	110	11	33	154	18	53	47	118	114	69	50	233	23	1	8	32	537
	その他の機関	-34		-86	52	47	19	5	-99	-62	50	-100	-83	-84	1,400	-92		1,008	67
		250	7	1	70	78	19	21	1	41	6	0	4	10	15	2	271	288	417
	県	-11	-3	2	38	19	117	-16	4	-25	-26	-4	83	11	105	135	67	102	33
		6,115	223	396	799	1,418	1,169	694	796	2,659	470	607	841	1,918	623	878	641	2,142	8,137
	政令市	5	18	50	2	25	-58	77	37	11	-45	-21	131	-7	31	-2	125	35	8
		882	13	63	44	120	44	156	85	285	116	86	162	364	102	40	45	187	956
市町村	-1	1	38	40	29	48	-22	30	16	-20	-30	-47	-31	-45	35	-61	-24	4	
	3,991	334	398	836	1,568	729	404	413	1,546	315	157	152	624	139	221	48	408	4,146	
民間	1	62	-11	-59	-20	56	51	105	67	34	-37	-20	-7	75	-29	-66	-49	-11	
	2,497	227	166	143	536	272	256	254	782	246	121	117	484	140	61	230	431	2,233	
計	-16	31	18	23	25	42	-7	30	20	-18	-20	34	-5	26	86	7	30	17	
	19,665	2,686	1,338	2,535	6,559	2,861	2,162	2,467	7,490	1,617	1,308	1,673	4,598	1,172	1,361	1,804	4,337	22,984	
地質調査等	国土交通省	-52	-33	-15	108	-4	133	677	74	181	-95	41	392	-16	-77	-21	-49	-54	18
		475	53	33	50	136	91	101	75	267	4	45	59	108	9	15	26	50	561
	国土交通省その他	-54	-92			75	-29	-50	-100	-48		-41	380	21			1,100	1,100	8
		115	2	40	0	42	10	19	0	29	0	17	24	41	0	0	12	12	124
	その他の機関	110	-100	-25	-17	-37	-74	400	-100	-75	-33			-33			100	133	-42
		174	0	6	50	56	11	5	0	16	8	0	0	8	0	3	18	21	101
	県	-11	74	35	39	45	22	-12	-10	5	-52	103	158	29	-11	-16	32	5	18
		898	73	89	118	280	181	79	53	313	44	73	93	210	42	81	135	258	1,061
	政令市	-12	-100	-100	150	0	-44	67	50	0	-84	0	-62	-65	-100	0	-57	-44	-43
		94	0	0	5	5	5	5	6	16	3	5	5	13	0	14	6	20	54
市町村	-12	100	133	42	70	-14	-61	-89	-59	450	-53	25	80	17	2,700	-14	193	34	
	103	10	7	17	34	6	11	1	18	33	7	5	45	7	28	6	41	138	
民間	-5	-50	265	-70	-21	11	30	-47	-12	75	-68	-75	-47	-77	20	450	28	-16	
	471	30	62	19	111	30	74	46	150	28	10	12	50	11	6	66	83	394	
計	-24	-28	77	5	8	17	28	-20	9	-48	6	68	-4	-53	9	37	1	4	
	2,330	168	237	259	664	334	294	181	809	120	157	198	475	69	147	269	485	2,433	
測量	国土交通省	-23	6	-25	191	27	-81	-32	-47	-56	64	-85	367	-50	-28	360	-19	55	-26
		784	148	9	64	221	25	72	35	132	59	29	28	116	23	69	21	113	582
	国土交通省その他	15	400	-100		229	-100		-90	-79	97	-51		0	-100			-100	-34
		195	20	0	3	23	0	11	8	19	59	28	0	87	0	0	0	0	129
	その他の機関	-30	-100			0		200	550	633	-100			-44	200	-100	100	17	84
		19	0	1	0	1	6	3	13	22	0	4	1	5	3	0	4	7	35
	県	-4	-80	15	-42	-32	-13	28	10	4	13	43	33	29	169	100	52	110	12
		630	3	45	69	117	91	68	80	239	70	87	44	201	70	44	35	149	706
	政令市	4	54	160	-98	-5	333	-100		157	-79	142	-11	14	100	-100		40	3
		262	189	13	2	204	13	0	5	18	3	29	8	40	6	0	1	7	269
市町村	-21	40	118	-21	37	53	-35	69	25	-47	-52	128	-25	-46	16	33	-18	15	
	882	183	209	110	502	153	53	86	292	41	47	66	154	25	22	16	63	1,011	
民間	28	31	165	-38	21	67	-61	17	1	-31	6	-31	-25	70	-36	-59	-34	2	
	541	223	53	50	326	60	17	28	105	33	19	25	77	17	9	17	43	551	
計	-9	31	89	-33	15	-9	-23	-15	-4	-45	52	-18	13	92	-10	24	-1	-1	
	3,313	766	330	298	1,394	348	224	255	827	265	243	172	680	144	144	94	382	3,283	
合計	-16	27	32	13	22	32	-6	20	15	-19	-23	38	-7	15	75	9	26	13	
	25,308	3,620	1,905	3,092	8,617	3,543	2,680	2,903	9,126	2,002	1,708	2,043	5,753	1,385	1,652	2,167	5,204	28,700	

はじめに

平成23年度の受注実態調査の結果について概要を報告する。本調査は協会員を対象にして四半期毎に行われ、各会員より提出された受注調査票に基づいて集計したものである。

1. 総受注高

受注実態調査より集計した月別受注高及び部門別受注高を表-1に示す。協会員の総受注高は287億円。前年度の253億円に対し、約13%増の結果となった。

2. 発注機関別傾向

表-2の発注機関別・地区別受注額について、発注機関毎の割合を示すと図-1, 2のようになる。

県（新潟、石川、富山）からの受注高（34.5%）が最も多く、国土交通省及び国土交通省その他（29.6%）、市町村（18.4%）、民間（11.1%）、政令市（4.5%）その他の国の機関（1.9%）と続く。県の内訳を地区別に見ると新潟エリアからの受注が最も多く、富山エリア、石川エリアへと続く形になっている。

表-2 発注機関別・地区別受注額

上段:件数
下段:受注高(百万円)

発注機関	地 区				合 計	割 合 (%)
	新 潟	富 山	石 川	その他		
国土交通省	406 4,987	262 1,824	113 892		781 7,701	10.8 26.8
国土交通省その他				72 790	72 790	1.0 2.8
その他の国の機関	25 172	5 35	28 345		58 553	0.8 1.9
県	1,627 6,639	568 1,526	536 1,738		2,731 9,904	37.9 34.5
政令市	271 1,279				271 1,279	3.8 4.5
市町村	577 1,906	484 1,630	623 1,760		1,684 5,295	23.4 18.4
民間	429 752	293 1,439	880 983		1,602 3,178	22.3 11.1
合 計	3,335 15,735	1,612 6,454	2,180 5,718	72 790	7,199 28,700	100.0 100.0
割合 (%)	46.3 54.8	22.4 22.5	30.3 19.9	1.0 2.8	100.0 100.0	

図-1 発注機関別受注率図

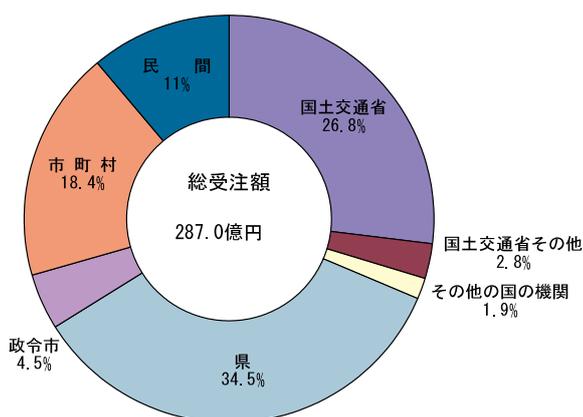
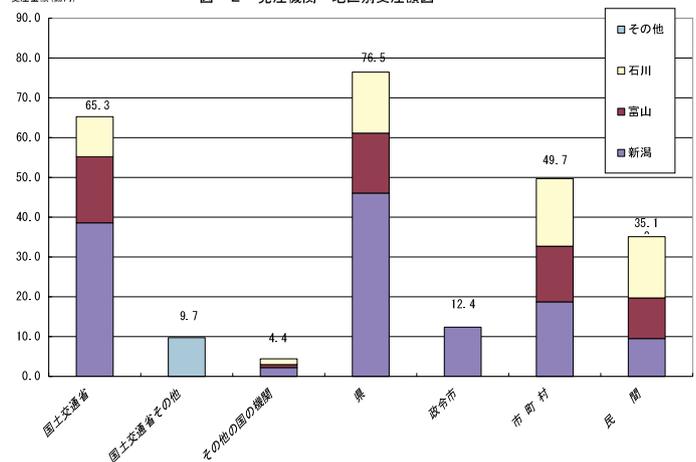


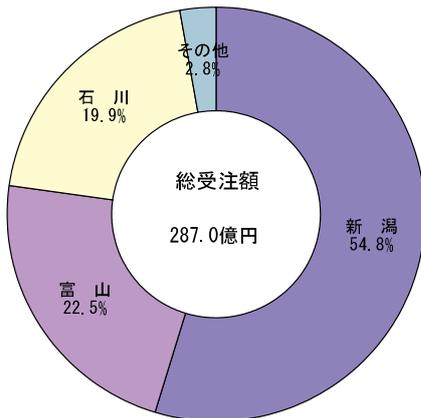
図-2 発注機関・地区別受注額図



3. 地区別傾向

受注高を地区別にみると、表- 2 及び図- 3、4 に示すように「新潟」地区が約157億円（前年度128億円）で全体の約55%を占める。次いで「富山」「石川」地区がそれぞれ約65億円（約23%）、57億円（20%）程

図- 3 地区別受注率図



4. 部門別傾向

部門別受注高は表- 3 及び図- 5 に示すように「設計解析」部門が圧倒的に多く、約230億円（前年度約197億円）で全体の約80%（前年度78%）となり、前年度より微増のシェアを占める結果となった。

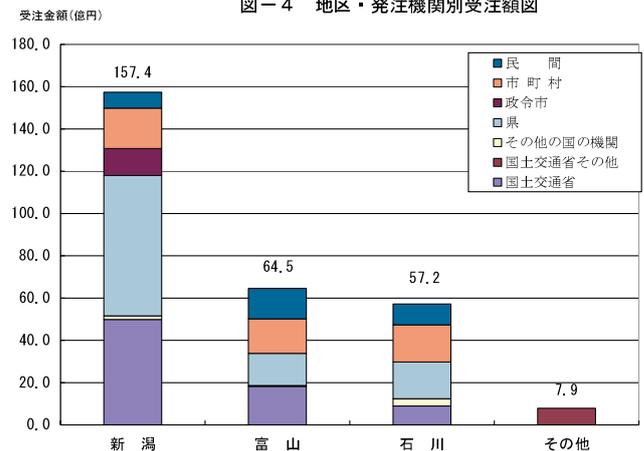
表- 3 部門別受注額

発注機関	部 門			合計
	設計解析	地質調査	測量	
国土交通省	610 6,558	85 561	86 582	781 7,701
国土交通省その他	50 537	11 124	11 129	72 790
その他の国の機関	33 417	12 101	13 35	58 553
県	2,169 8,137	322 1,061	240 706	2,731 9,904
政令市	207 956	22 54	42 269	271 1,279
市町村	1,292 4,416	46 138	346 1,011	1,684 5,295
民間	731 2,233	603 394	268 551	1,602 3,178
合計	5,092 22,984	1,101 2,433	1,006 3,283	7,199 28,700
割合 (%)	70.7 80.1	15.3 8.5	14.0 11.4	100.0 100.0

度を占めています。

それぞれの地区を発注機関別に見ると、いずれも「国土交通省」「県」「市町村」が大部分を占め、いずれも「新潟」地区における受注高が他地区を上回っている。

図- 4 地区・発注機関別受注額図



各部門を発注機関別にみると表- 3 及び図- 6 に示すとおり「設計解析」部門の受注高は「国土交通省」「県」がそれぞれ全体の概ね29%～35%に相当し、「設計解析」全体の約64%を占めている。

上段: 件数

下段: 受注高 (百万円)

図-5 部門別受注率図

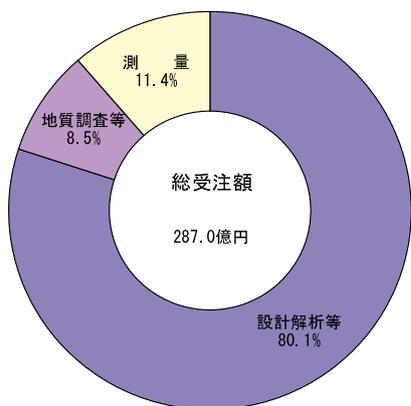
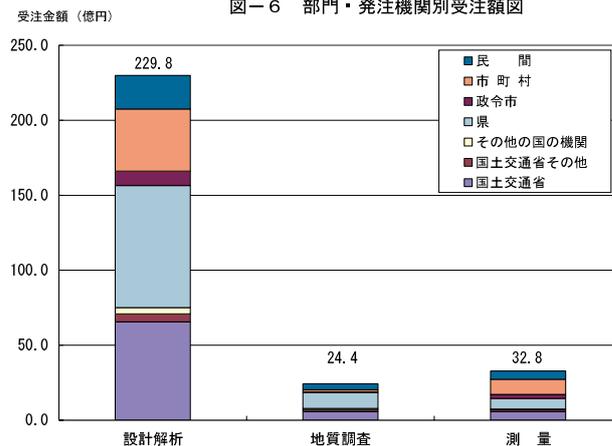


図-6 部門・発注機関別受注額図



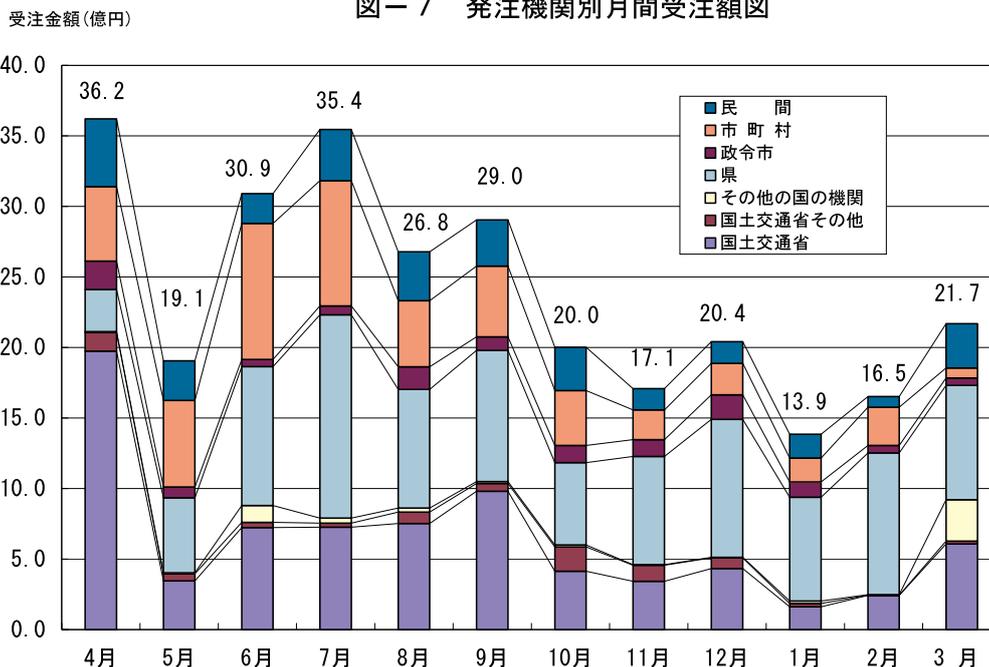
5. 月別受注傾向

平成23年度の各月毎の受注状況を見ると図-7のようになる。4～6月は4月の年度内最高36.2億円となり、7～9月は7月の35.4億円をピークに推移した。10～12月は12月に20.4億円、11月20億円台を下回り低調に推移した。1～3月は3月に若干回復し、21.7億

円となったが、1月は年度内最低の13.9億円（昨年度最低は2月の9.4億円）となった。

年間では上半期（4～9月）に177.4億円（前年度177.5億円）の受注となり、年度間総額287億円の約62%を占める結果となった。

図-7 発注機関別月間受注額図



6. 受注規模傾向

発注機関、地区、部門別に1件当たり平均受注額を表4、5に示し、比較図を図-8に示す。

全体の1件当たり受注額は399万円(前年度388万円)であり、前年度より増となった。

発注機関では、「国土交通省その他」が最も高く1,097万円、次いで「国土交通省」986万円、「その他の国の

機関」953万円、「政令市」472万円となった。以下「県」363万円、「市町村」314万円、「民間」198万円については、平均399万円より低い結果となっている。

地区別では「新潟」地区が最も高く472万円（前年度446万円）で5.8%増、「富山」地区が400万円（前年度421万円）で5%減、「石川」地区が262万円（前年

度264万円)で1%減となった。

また部門別では「設計解析」は451万円(前年度438万円)で3%増、「地質調査」は221万円(前年度229万円)

で3.5%減、「測量」は326万円(前年度326万円)で0%増となった。

表-4 機関別・地区別1件当たり受注額

単位:万円

発注機関	地 区				発注機関別 1件当たり
	新潟	富山	石川	その他	
国土交通省	1,228	696	789		986
国土交通省その他				1,097	1,097
その他の国の機関	688	700	1,232		953
県	408	269	324		363
政令市	472				472
市町村	330	337	283		314
民間	175	491	112		198
地区別1件 当たり	472	400	262	1,097	総件数当り 399

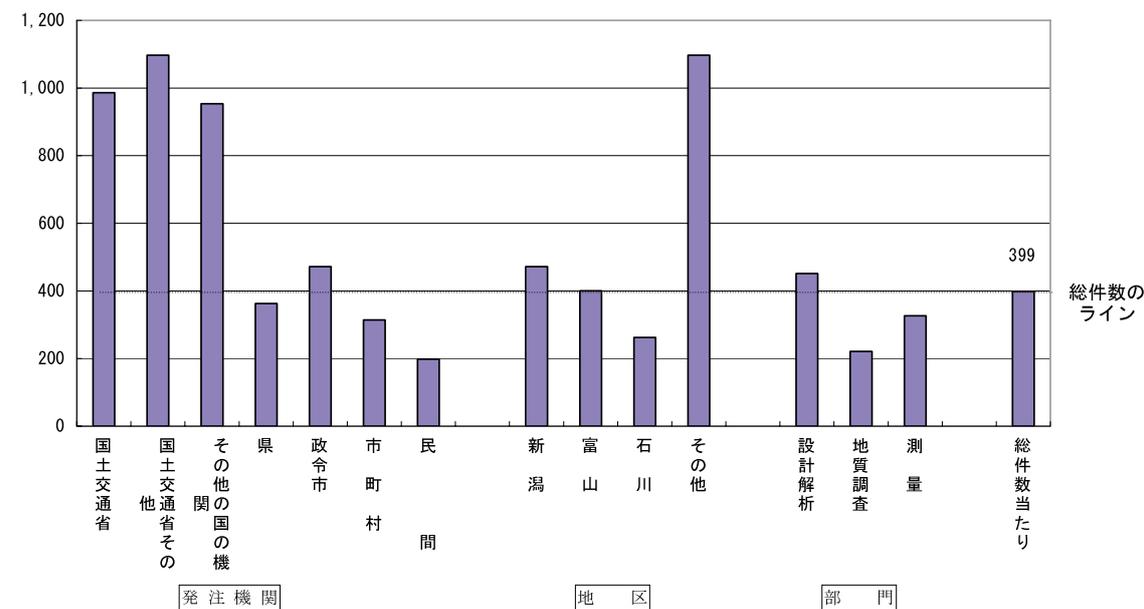
表-5 部門別1件当たり受注額

単位:万円

発注機関	部 門		
	設計解析	地質調査	測量
国土交通省	1,075	660	677
国土交通省その他	1,074	1,127	1,173
その他の国の機関	1,264	842	269
県	375	330	294
政令市	462	245	640
市町村	321	300	292
民間	305	65	206
部門別1件当たり	451	221	326

1件当たり
受注額(万円)

図-8 1件当たり受注額図



お知らせ

年3回の発刊に伴い、今まで掲載しておりました四半期毎の受注状況については、本誌の中では掲載いたしませんので、下記の方法でご覧くださいませようお願い致します。

北陸地方整備局のホームページ

目的別メニュー

↓
情報公開

北陸地方建設事業推進協議会「建設経済動向」

↓
「3 建設コンサルタントの受注動向」

北陸支部活動報告

平成23年4月7日

平成23年度第1回役員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／一般社団法人移行準備特別委員会報告について

「城下町金沢国際ワークショップ」への後援について

平成23年度地方ブロック意見交換会について

北陸支部に組織（案）について

北陸支部役員、部会員及び委員の候補（案）

について

第29回北陸支部定例総会議案（案）について

会員の退会について

その他

平成22年度本部との意見交換会議事録について

次回平成23年度第2回役員会開催日について

平成23年4月12日

北陸支部会計監査受検

場 所／北陸支部会議室

実施者／監事 新保 仁、山本 宏司

立会者／運営委員長 藤巻 俊二

平成23年4月14日

災害時対応検討委員会

場 所／協会本部

議 題／H22災害時対応演習における課題等への対応について

H23災害時対応演習案について

東日本大震災の支援活動について

出席者／広報委員長 青木 和之

平成23年4月15日

対外活動部会新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度 新潟県、新潟市との意見交換会について

平成23年4月22日

平成23年度 北陸支部定例総会

場 所／新潟市内

総 会

第1号議案 平成22年度事業報告（案）

第2号議案 平成22年度決算（案）

監査報告

第3号議案 平成23年度事業計画（案）

第4号議案 平成23年度予算（案）

第5号議案 会則の改正（案）

第6号議案 役員を選任

講演会

講師 国道交通省 北陸地方整備局

道路部 道路調査官 近藤 淳 氏

演題 「東日本大震災と道路の役割」

平成23年5月11日

広報部会委員長会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度 事業計画について

平成23年5月16日

技術部会道路委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度事業計画について

平成23年5月17日

平成23年度建設技術報告会第1回実行委員会

場 所／北陸技術事務所

議 題／平成23年度建設技術報告会実施計画（案）について

平成23年度建設技術報告会予算〔案〕について

その他

出席者／広報委員長 間瀬 義昭

平成23年5月20日

技術部会委員長会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度事業計画について

平成23年5月23日

会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／雪の音111号の内容確認

会員名簿の確認

雪の音112号の発刊計画

平成23年5月24日

北陸支部品質向上推進WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／ガイドラインドラフトの本部への報告対応について

平成23年5月25日

平成23年度第1回「北陸の建設技術」編集委員会

場 所／新潟市内

議 題／平成23年度活動計画（案）について

出席者／会誌編集委員会委員 齋藤 浩幸

平成23年5月27日

広報部会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度活動計画について

その他

平成23年6月6日

技術部会河川及び砂防委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成23年度事業計画について

平成23年6月15日

技術部会橋梁委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／橋梁点検システムについて

平成23年6月20日

平成23年度災害復旧事業技術講習会（共催）

場 所／新潟市内

内 容／「防災に関する最近の話題」

講師 北陸地方整備局

企画部 防災課長 宮村 兵衛氏

「災害採択の基本原則」

講師 北陸地方整備局

企画部 技術調整管理官 古川 正幸氏

「災害復旧工法」

講師（社）全国防災協会災害復旧技術専門家

皆本 重雄 氏

「被災状況と採択事例」

～新潟県の地震災害における事例～

講師 新潟県土木部 河川管理課 小川 謙

輔 氏

参加者／172 名

平成23年6月22日

総括部会

場 所／北陸支部会議室

議 題／技術部会と広報部会との連携について

平成23年6月23日

30周年記念事業実行委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／30周年記念誌発行について

30周年記念講演・式典・祝賀会について

平成23年6月24日

橋梁技術講演会

場 所／新潟市内

演 題／「日本の技術の弱点」

講師 寺田 和己（寺田技術アドバイザー事務所）

参加者／11会員19名

平成23年6月24日

全国事務局長会議

場 所／協会本部

議 題／公益法人制度改革について

第二次中期行動計画助成金について

平成23年6月26日

北陸支部石川事務所社会貢献活動

白山外来植物除去作業 i n 市ノ瀬一斉防除

場 所／白山国立公園

内 容／外来植物除去作業

参加者／38名

平成23年6月28日

平成23年度第2回役員会

場 所／新潟市内

議 題／協会本部運営委員会、通常総会資料報告

資格・CPD部会報告

独占禁止法の遵守のための行動計画改定について

一般社団法人への移行決議について

東北地方太平洋沖地震災害に係る義捐金について

本部と北陸地方整備局等との意見交換会について

新入会について

各部会行事予定について

その他

次回平成23年度第3回役員会開催日について

平成23年6月28日

本部と北陸地方整備局等との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 前川局長他9名

新潟県 平野技監他1名

富山県 山谷建設技術企画課主幹

石川県 浜崎技術管理室課長補佐

新潟市

本部 大島会長他9名、北陸支部 寺本支部長他21名

平成23年6月29日

都市計画委員会

場 所／金沢市内

議 題／現地見学、発表会、10月研修会の検討

平成23年7月5日

土木用コンクリート製品評価委員会

場 所／北陸地方整備局

議 題／新製品の評価について

今後の進め方について

出席者／対外活動部会幹事 竹重寿夫

平成23年7月5日

平成23年度第1回工事施工対策部会

場 所／北陸地方整備局

議 題／平成23年度活動について

出席者／道路委員長 渡辺雅樹

平成23年7月6日

平成23年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会

場 所／北陸地方整備局

議 題／平成22年度活動報告・平成22年度収支決算報告
平成23年度活動計画・平成23年度予算計画
その他

出席者／建設環境委員長 佐藤 朗

平成23年7月6日

技術部会指針等検討委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／設計要領（道路編）改訂について

平成23年7月8日

第1回北陸地方整備局新技術活用評価会議

場 所／北陸地方整備局

出席者／河川及び砂防委員長 涌井 正樹

平成23年7月15日

第3回北陸情報化施工推進委員会

場 所／北陸地方整備局

議 題／平成22年度の取組報告について

平成23年度の活動計画について

出席者／技術部会長 横山 徹成

平成23年7月15日

講師派遣

派遣先／新潟県

派遣数／2名

内 容／新潟県橋梁定期点検要領に基づく点検のポイント

平成23年7月16日

新潟県中越沖地震4周年合同追悼式

場 所／柏崎市

出席者／支部長 寺本 邦一

平成23年7月21日

平成23年度 マネジメントセミナー（本部主催）

場 所／新潟市内

講 師／本部担当委員会委員

内 容／マネジメントセミナー建設コンサルタントと
マネジメントPFI事業の今後の展望と建
コンサルタントの役割

CM業務の現状と建設コンサルタントの役割
環境配慮設計に向けた事例等の紹介

QMSの実効性の向上

品質の確保・向上に向けて

参加者／国5名、県1名、市5名、22会員46名、非会員1名、計58名

平成23年7月27～29日

東北地方太平洋沖地震による被災状況現地調査

場 所／宮城県

内 容／被災状況現地調査

参加者／17名

平成23年7月29日

道路・トンネル技術講習会

場 所／金沢市内

演 題 「行動する技術者たち」

講師 国土交通省 国土技術政策総合研究所
総合技術政策研究センター 建設経済
研究室

研究官 大橋 幸子 氏

演 題 「地震時の道路盛土崩壊とトンネル
シェッド崩壊への対応」

講師 金沢工業大学 環境・建築学部 環境
土木工学科

教 授 川村 國夫 氏

出席者／22会員58名 学生2名 計60名

平成23年8月1日

第4回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題 「最近の国土交通行政の取り組みにつ
いて」

講師 北陸地方整備局 企画部
地方事業評価管理官 矢田 弘 氏

演題 「中越大震災からの教訓を東日本大震
災にどう活かすか」

講師 長岡造形大学 准教授 澤田 雅浩 氏

参加者／200名

平成23年8月3日

第4回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

内 容／演題 「最近の国土交通行政の取り組みにつ
いて」

講師 北陸地方整備局 企画部
技術開発調整官 今野 和則 氏

演題 「中越大震災からの教訓を東日本大震
災にどう活かすか」

講師 NPO 法人中越防災フロンティア副理事
長 青木 勝 氏

参加者／55名

平成23年8月4日

第4回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

内 容／演題 「最近の国土交通行政の取り組みにつ
いて」

講師 北陸地方整備局 企画部
技術調整管理官 古川 正幸 氏

演題 「中越大震災からの教訓を東日本大震
災にどう活かすか」

講師 NPO 法人中越防災フロンティア副理事
長 青木勝氏

参加者／170名

平成23年8月5日

第4回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

内 容／演題 「最近の国土交通行政の取り組みにつ
いて」

講師 北陸地方整備局 企画部
技術調整管理官 古川 正幸 氏

演題 「中越大震災からの教訓を東日本大震
災にどう活かすか」

講師 長岡造形大学 名誉教授 平井 邦彦 氏

参加者／106名

平成23年8月5日

けんせつフェア in 北陸2011第2回幹事会

場 所／北陸地方整備局

議 題／出展募集結果について

会場配置計画（案）について

実施計画（案）について

変更予算（案）について

出席者／事務局長 高橋 正廣

平成23年8月8日

会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／雪の音112号（8月号）の内容確認
雪の音113号（11月号）の発刊計画

平成23年8月12日

けんせつフェア in 北陸2011第2回実行委員会

場 所／北陸地方整備局

議 題／出展募集結果について
会場配置計画（案）について
実施体制（案）について
実施計画（案）について

出席者／広報委員長 間瀬 義昭

平成23年8月22日

平成23年度第3回役員会

場 所／金沢市内

議 題／協会本部定例運営会議等報告
・平成23年度災害時対応演習について
・各部会等報告
・品質向上推進ガイドライン
・建設コンサルタント業務等におけるプロ
ポーザル方式及び総合評価落札方式の運用
ガイドライン
地域コンサルタント委員会報告
本部からの支部助成金等について
「後援」について
各部会行事予定について
土砂災害防止法の一部改正について
その他 次回平成23年度第4回役員会開催日
について

平成23年8月26日

防災演習事前演習

場 所／北陸支部会議室

内 容／F A X及びメールによる送受信

参加者／広報部会長外3名

平成23年8月29日

講師派遣

派遣先／新潟県

派遣数／1名

内 容／橋梁詳細設計照査要領に沿った「照査の流れ
とチェックポイント」

平成23年8月30日

国土交通省金沢河川国道事務所との意見交換会

場 所／金沢河川国道事務所

議 題／主要事業と予算の概要について
予定価格1,000万円未満の低入札対策について
総合評価落札方式の適用範囲見直しについて
簡易（特別）型総合評価方式の試行について
地元技術者への受注機会の確保について

出席者／金沢河川国道事務所長外6名
北陸支部副支部長外4名

平成23年9月1日

防災演習

場 所／北陸支部会議室

内 容／F A X及びメールによる送受信

参加者／広報部会長外3名

平成23年9月15～16日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／7名

内 容／道路設計全般、平面線形基礎演習(1)(2)、
縦断線形基礎演習、河川橋計画基礎演習(1)(2)、
横断設計基礎演習、平面交差点基礎演習、重
力式擁壁の安定計算

平成23年9月22日

講師派遣

派遣先／(財)新潟県建設技術センター

派遣数／5名

内 容／下部工設計のための地質調査の基本、下部工
設計の基本、
下部工の施工とその留意事項、下部工施工時
における仮設
構造物の計画、橋梁設計のエラー事例

平成23年9月29日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1名

内 容／橋梁設計のエラー事例

平成23年9月29日

第2回北陸地方整備局新技術活用評価会議

場 所／北陸技術事務所

出席者／河川及び砂防委員長 涌井 正樹

平成23年10月5日

「北陸の建設技術」第2回編集委員会

場 所／富山市内

議 題／平成23年度上半期活動状況について

平成23年度下半期活動計画について

優良工事座談会（案）について

その他

出席者／会誌編集委員 齋藤 浩幸

平成23年10月6日

平成23年度第4回役員会

場 所／新潟市内

議 題／協会本部運営会議報告

- ・平成23年度 B会費（案）総括表
- ・各部会等報告
- ・今後の橋梁保全事業のあり方に関する懇談会報告書
- ・地方ブロック意見交換会に関する本省報告会
- ・ノー残業デーの実施について
- ・対外的論文発表について
- 各部会行事予定について
- 平成23年度支部助成金について
- 「後援」について
- 契約のあり方講習会について
- 北陸地方整備局との意見交換会について
- その他
 - ・次回平成23年度第5回役員会開催日について

平成23年10月6日

北陸地方整備局との意見交換会

場 所／新潟市内

議 題／公示文について、改訂ガイドラインについて

業務実施期間確保について、技術提案書の提出者選定時及び入札参加者指名時の評価基準について、その他

出席者／北陸地方整備局 企画部長外6名

北陸支部 支部長外20名

平成23年10月7日

河川見学会

場 所／黒部河川事務所

内 容／小黒部谷砂防事業等

参加者／15会員21名

平成23年10月11日

新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

内 容／新潟市との意見交換会について

平成23年10月13、14日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局

派遣数／1名

内 容／橋梁点検要領解説及び実地研修

平成23年10月14日

G I S講習会（概論編・データ活用編）

場 所／新潟市内

講 師／本部 データ連携専門委員会

参加者／7会員9名

平成23年10月14日

平成23年度R C C M登録更新講習会（本部主催）

場 所／新潟市内

参加者／159名

平成23年10月18日

建設技術報告会（実行委員会）

場 所／新潟市内

平成23年10月19日

品質セミナー“エラー防止のために”（本部主催）

場 所／富山市内

講 師／本部技術委員会照査特別WG委員

内 容／エラー事例の紹介

専門技術的観点からエラーの技術的分析と改善策

土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価
「品質向上推進特別本部」の活動報告

参加者／国3名、25会員45名、非会員2名 計50名

平成23年10月20日

30周年記念事業実行委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／30周年記念誌発行について
30周年記念講演・式典・祝賀会について

平成23年10月21日

指針等検討委員会

場 所／北陸支部会議室

内 容／北陸地方整備局設計要領の改訂について

平成23年10月21日

G I S 講習会（概論編・データ活用編）

場 所／富山市内

講 師／本部 データ連携専門委員会

参加者／4会員9名

平成23年10月21日

平成23年度 CALS/EC 支部連絡会議

場 所／協会本部

議 題／CALS/EC 推進会議、標準化委員会関係等の
報告
今後に関する意見交換

出席者／情報委員長 樋浦 慎

平成23年10月26日～27日

都市計画見学・研修会

場 所／川越市

内 容／歴史的資源を活かしたまちづくり

参加者／5会員12名

平成23年10月28日

独占禁止法の遵守に関する研修会（共催）

場 所／金沢市内

講 師／財公正取引協会 客員研究員 鈴木 裕史 氏

内 容／入札談合と独占禁止法

参加者／23会員31名 他協会26名 計57名

平成23年10月28日

道路・トンネル・橋梁現場見学会

場 所／新潟県

内 容／国道49号揚川改良工事

参加者／10会員24名

平成23年10月31日

災害時対応検討委員会

場 所／協会本部

議 題／課題等への対応について

H23災害時対応演習案について

東日本大震災の支援活動について

出席者／広報部会長 青木 和之

平成23年11月1、2日

講師派遣

派遣先／富山県

派遣数／1名

内 容／橋梁点検について

平成23年11月4、5日

けんせつフェア in 北陸2011（実行委員会）

場 所／新潟市内

来場者／3,000名

平成23年11月7日

会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／雪の音113号（11月号）の内容確認
雪の音114号（24/2月号）の発刊計画

平成23年11月9日

第2回橋梁技術講演会

場 所／新潟市

内 容／演 題 「これからの橋梁計画のあり方」

講師 国土交通省 国土技術政策総合研究所
所長 西川 和廣 氏

演 題 「日本橋梁技術に思うこと」

講師 三井住友建設株式会社

土木本部 春日 昭夫 氏

参加者／21会員45名

平成23年11月12日

社会貢献活動 美化活動

場 所／新潟市中央区（本町、東掘）

内 容／美化活動

参加者／会員47名、一般2名 計49名

平成23年11月14日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1名

内 容／コンクリート構造物のアセットマネジメント
システム

平成23年11月15日

新潟市との意見交換会

場 所／新潟市内
議 題／建設関係予算について、業務の円滑な執行について、地域調達について、入札契約制度について、その他

出席者／新潟市 吉田技監他11名
北陸支部 小野塚副支部長他12名

平成23年11月17日

土研新技術ショーケース（共催）

場 所／新潟市内
内 容／土木研究所の新技術紹介及び技術相談
参加者／245名

平成23年11月18日

出前講演

派遣先／新潟市立大形小学校
派遣数／建設環境委員2名、広報委員2名
内 容／身近な環境について

平成23年11月18日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター
派遣数／1名
内 容／コンクリート構造物のアセットマネジメントシステム

平成23年11月22日

CADセミナー

場 所／新潟市内
講 師／本部 CAD 専門委員会
内 容／CADに関する最新動向、
CAD 製図基準見直しの動向と方向性
OCF 会員企業の「我社 CAD ソフトの紹介」

参加者／12会員17名

平成23年11月24日

森林環境に関する講習会

場 所／新潟市内
演 題／「里山の再生・ナラ枯れに関する対応」
講 師／新潟県森林研究所
森林・林業技術課長 布川 耕市 氏

演 題／「新潟県カーボンオフセット制度の概要と今後」

講 師／新潟県環境企画課

地球環境対策室長 皆川 新一 氏

参加者／12会員19名 非会員1名 計20名

平成23年11月25日

橋梁現場見学会

場 所／長岡市
内 容／長岡東西道路 信濃川橋梁見学
参加者／10会員19名

平成23年11月29日

河川構造物の耐久性診断技術について（堰編）

場 所／新潟市内
内 容／概要、変状の種類と要因、調査手法
劣化予測と評価、対策工

参加者／11会員20名

平成23年11月30日

情報セキュリティ講習会（共催）

場 所／新潟市内
講 師／本部 情報セキュリティ専門委員会
内 容／情報セキュリティ専門委員会とBCPの概要
東日本大震災に学ぶ、事業継続に備える情報技術
変化する情報セキュリティの脅威とその対応

参加者／19会員29名

平成23年12月1日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会

場 所／高田河川国道事務所
議 題／北陸地方建設副産物対策連絡協議会幹事会報告について
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会規約の改訂について

出席者／建設環境委員会 委員 藤本 隆則

平成23年12月2日

全国事務局長会議

場 所／協会本部
議 題／公益法人制度改革について
第二次中期行動計画助成金について

平成23年12月6日

平成23年度第5回役員会

場 所／新潟市内
議 題／協会本部定例運営会議報告

- ・ 対外活動委員会報告
 - ・ 白書委員会活動経緯報告
 - ・ 平成24年賀詞交換会について
 - ・ 平成24年度 国土交通省予算概算要求概要
 - ・ 一般社団法人移行申請について
 - ・ 50周年記念事業特別実行委員会設置について
 - ・ 「ノー残業デーの実施」及び「対外的論文の発表」について
 - ・ TPP 協定交渉の現状
- 北陸地方整備局との災害協定見直しについて
支部会員との意見交換会の開催について
「後援」について
北陸道路舗装会議の賛助について
各部会行事予定について
北陸支部30周年準備委員会報告
その他 次回平成23年度第6回役員会開催日について

平成23年12月6日

講演会

場 所／新潟市内
講 師／協会本部 副会長 藤本 貴也 氏
内 容／建設コンサルタントを巡る課題と今後の方向
参加者／74名

平成23年12月6日

広報部会会議

場 所／新潟市内
議 題／平成23年度活動報告と今後の活動予定

平成23年12月6日

技術部会委員長会議

場 所／新潟市内
議 題／平成23年度活動報告と今後の活動予定

平成23年12月7日

30周年記念事業実行委員会

場 所／北陸支部会議室
議 題／30周年記念誌発行について
30周年記念講演・式典・祝賀会について

平成23年12月7日

建設技術報告会第2回実行委員会

場 所／北陸技術事務所

出席者／広報委員長 間瀬 義昭

平成23年12月13日

建設コンサルタントのPR講演

派遣先／新潟大学
派遣数／都市計画委員3名、広報委員2名
内 容／建設コンサルタントとは

平成23年12月13日

第3回北陸地方整備局新技術活用評価会議

場 所／北陸地方整備局
出席者／河川及び砂防委員長 涌井 正樹

平成23年12月13日

富山県土木部との意見交換会

場 所／富山市内
議 題／予算確保について
設計委員会について
設計業務等成績評定について
設計業務委託の適切な工期設定について
建設コンサルタント等委託業務の更なる低入札対策について
時間外（残業）の縮減について
その他

参加者／富山県 柴田土木部次長他6名
北陸支部 吉田副支部長他7名

平成23年12月20日

災害時対応検討委員会

場 所／協会本部
議 題／前回議事録の確認
H23災害時対応演習における課題等について
災害時対応の課題について
H24災害時対応演習について

出席者／広報部会長 青木 和之

平成23年12月22日

平成23年7月新潟・福島豪雨水害対応検証意見交換会

場 所／新潟県庁
議 題／事前準備態勢について
応援要請について
地域機関の対応について 等

出席者／災害対策部会長他6名

平成23年12月27日

新潟県「道路橋計画のてびき」「塩害対策マニュアル(案)」第1回改訂会議

場 所／新潟県庁

議 題／改訂会議の概要、スケジュールの説明

出席者／橋梁委員 洪水 薫、寺田 直樹、南雲 浩

平成24年1月18日

「北陸の建設技術」第3回編集委員会

場 所／高田河川国道事務所

議 題／平成23年度活動報告について

平成23年度収支報告について

平成24年度活動計画について

出席者／会誌編集委員 齋 藤 浩 幸

平成24年1月23日

M a d e i n 新潟(土木・建築)新技術説明会(共催)

場 所／長岡市内

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成24年1月30日

M a d e i n 新潟(土木・建築)新技術説明会(共催)

場 所／新潟市内

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成24年1月30日

けんせつフェア in 北陸2011第3回実行委員会・第3回幹事会合同会議

場 所／北陸地方整備局

議 題／開催結果概要について

決算報告について

会計監査報告について

次回開催について

出席者／広報委員長 間瀬 義昭

事務局長 高橋 正廣

平成24年1月31日

M a d e i n 新潟(土木・建築)新技術説明会(共催)

場 所／上越市内

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成24年2月1日

新潟県土木部との意見交換会

場 所／新潟市内

議 題／土木部予算について

地域調達について

入札・契約制度等について

業務の円滑な執行について

各地域機関の現状と課題、情報提供

出席者／新潟県 田宮土木部長外13名

北陸支部 小野塚副支部長外12名

平成24年2月2日

会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／雪の音114号の内容確認

雪の音115号の発刊計画

平成24年2月7日

北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会

場 所／北陸地方整備局

議 題／工事施工の円滑化4点セット

出席者／道路委員長 渡 辺 雅 樹

平成24年2月7日

北陸地方建設事業推進協議会建設情報広報部会

場 所／北陸地方整備局

議 題／平成23年度活動結果について

平成24年度活動方針について

出席者／広報委員長 間 瀬 義 昭

平成24年2月14日

講師派遣

派遣先／新潟県

派遣数／1名

内 容／双務性の向上について

平成24年2月16日

独占禁止法の遵守等に関する講習会

場 所／新潟市内

内 容／独占禁止法等関連諸法について

建設コンサルタント業の職業倫理について

講 師／(社)建設コンサルタンツ協会

独禁法に関する委員会実行委員会

職業倫理委員会

参加者／34会員52名

平成24年2月17日

新潟県「道路橋計画のてびき」「塩害対策マニュアル(案)」第2回改訂会議

場 所／新潟県庁

議 題／改訂案の提示及び意見集約

各団体改訂案野提示及び意見集約

出席者／橋梁委員 渋木 薫、寺田 直樹、南雲 浩

平成24年2月20日

第2回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

演題「北陸におけるコンクリート製品設計施工の最新動向について」

講師 北陸土木コンクリート製品技術協会

参加者／95名

平成24年2月21日

第2回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

演題「北陸におけるコンクリート製品設計施工の最新動向について」

講師 北陸土木コンクリート製品技術協会

参加者／96名

平成24年2月22日

第2回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

演題「北陸におけるコンクリート製品設計施工の最新動向について」

講師 北陸土木コンクリート製品技術協会

参加者／43名

平成24年2月24日

第2回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

演題「北陸におけるコンクリート製品設計施工の最新動向について」

講師 北陸土木コンクリート製品技術協会

参加者／120名

平成24年2月28日

平成23年度第6回役員会

場 所／新潟市内

議 題／協会本部定例運営会議報告

・総務部会報告

・企画部会報告

・技術部会報告

・情報部会報告

・資格・C P D部会報告

・平成22年度「独占禁止法の遵守のための行動計画」

実施状況報告

・H23年度（2011年度）C P D監査報告

・50周年記念行事特別実行委員会

・平成24年度予算のポイント

・膨大な復興道路の事業量

・国土交通省地方整備局の府県（連合）への移行に伴う問題点

各部会行事

共催について（事後承認）

平成24年度第30回定例北陸支部定例総会次第

平成23年度各部会事業報告（案）、平成24年度

各部会事業計画（案）について

会則の改正について

支部入会について

その他 次回平成24年度第1回役員会開催日

について

平成24年2月28日

本部と北陸支部との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／本部 大島会長他10名 北陸支部 寺本支部長他15名

平成24年3月1日

第6回北陸情報化施工研究会

場 所／北陸地方整備局

議 題／本年度の取組報告について

次年度の活動計画について

出席者／道路委員 木村 浩

平成24年3月13日

第4回北陸地方整備局新技術活用評価会議

場 所／北陸地方整備局

出席者／河川及び砂防委員長 涌井 正樹

平成24年3月14日

第4回北陸情報化施工推進委員会

場 所／北陸地方整備局

議 題／本年度の取組報告について

次年度の活動計画について

出席者／技術部会長 横山 徹成

平成24年3月28日

北陸地方建設事業推進協議会新施策促進普及部会

場 所／北陸地方整備局

議 題／平成24年度活動方針（案）について

新たな取組について

出席者／事務局長 高橋 正廣

平成24年3月28日

平成23年度土木用コンクリート製品評価委員会

場 所／北陸地方整備局

議 題／コンクリート製品の評価について

コンクリート二次製品外観合否判定基準(案)

について

出席者／対外活動部会幹事 坂上 悟

以 上

社団法人 建設コンサルタンツ協会北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
朝 日 航 洋 (株)	北陸空情社	950-0088 新潟市中央区万代 2-3-6 (新潟東京海上日動ビル 2F)	025(249)1150 025(249)1151
旭 調 査 設 計 (株)	本 社	950-0908 新潟市中央区幸西 1-1-11	025(245)8345 025(245)8349
ア ジ ア 航 測 (株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-28 (ニッセイ新潟東大通ビル)	025(243)3246 025(247)7969
(株) ア ル ゴ ス	本 社	944-0009 妙高市東陽町 1-1	0255(72)3448 0255(72)9426
アルスコンサルタンツ(株)	本 社	921-8116 金沢市泉野出町 2-1-1	076(248)4004 076(248)4174
い で あ (株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-1 (KDX新潟ビル)	025(241)0283 025(243)5650
(株)エイト日本技術開発	新潟営業所	943-0804 上越市新光町 1-4-52	025(522)7570 025(522)7786
エ ヌ シ ー イ ー (株)	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-4-11	025(285)8540 025(285)3531
大 原 技 術 (株)	本 社	940-0856 長岡市美沢 3-275	0258(35)4511 0258(36)3254
応 用 地 質 (株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹 7-27-35	025(274)5656 025(271)6765
(株)オリエントアル コンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (プレイス新潟 4F)	025(244)7881 025(244)7387
開 発 技 建 (株)	本 社	950-0914 新潟市中央区紫竹山 7-13-16	025(245)7131 025(245)7132
(株)開発技術コンサルタント	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 3-33-3	025(233)0204 025(233)6465
川 崎 地 質 (株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山 5-7-5	025(241)6294 025(241)6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通 1-2-34	025(257)1888 025(257)1880
北 建 コ ン サ ル (株)	本 社	933-0941 高岡市内免 3-3-6	0766(23)3666 0766(23)3987
(株)キタック	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 10-2	025(281)1111 025(281)0001
(株)協和	本 社	933-0838 高岡市北島 1406	0766(22)2100 0766(22)7602
(株)クリエイトセンター	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 2-8-1	025(232)7121 025(232)7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山 4-19-13 (ハイムオカザキ)	025(248)2205 025(248)2206
(株)計画情報研究所	本 社	920-0025 金沢市駅西本町 2-10-6	076(223)5445 076(223)4144
(株)建成コンサルタント	本 社	933-0014 高岡市野村 284-1	0766(25)6097 0766(25)5697

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
建設技研コンサルタンツ(株)	本 社	933-0007 高岡市角 602-1	0766(21)6126 0766(21)6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 7 F)	025(285)6437 025(280)9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代 4-4-27 (新潟テレコムビル 8 F)	025(245)3883 025(241)9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	957-0056 新発田市大栄町 7-6-3	0254(21)3100 0254(21)3101
(株)構造技研新潟	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 8 F)	025(282)3337 025(282)3323
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (マニュアルプレイス新潟)	025(247)0318 025(241)4146
(株)国土開発センター	本 社	921-8033 金沢市寺町 3-9-41	076(247)5080 076(247)5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井 1035-1	025(260)2245 025(260)7522
五大開発(株)	本 社	921-8051 金沢市黒田 1-35	076(240)6588 076(240)6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上 4-4-15	025(260)3141 025(268)4950
(株)上 智	本 社	939-1351 砺波市千代 176-1	0763(33)2085 0763(33)2558
(株)新日本コンサルタント	本 社	930-0142 富山市吉作 910-1	076(436)2111 076(436)2260
相互技術(株)	本 社	950-0994 新潟市中央区上所 2-11-14	025(283)0150 025(283)0152
(株)大東設計コンサルタント	新潟支店	950-0086 新潟市中央区花園 2-1-16 (三和ビル)	025(246)1320 025(247)3740
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺 633	076(436)7855 076(436)6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山 4-1-24	025(234)2110 025(234)2111
舘下コンサルタンツ(株)	本 社	939-3553 富山市水橋の場 234	076(478)0090 076(478)0090
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南 3-1-21 (北陽ビル)	025(283)0211 025(283)0212
(株)中部コンサルタント	本 社	933-0866 高岡市清水町 3-5-9	0766(21)4536 0766(22)4370
(株)長 大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 6 F)	025(288)0271 025(288)0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口 1-19-31	025(244)8445 025(249)4776
(株)東京建設コンサルタント	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル 2 F)	025(248)3870 025(248)3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口 1-1-12 (クラスターナイン)	025(246)1827 025(246)7463
(株)東 洋 設 計	本 社	920-0016 金沢市諸江町中丁 214	076(263)6555 076(233)1224
ナチュラルコンサルタント(株)	本 社	921-8066 金沢市矢木 2-147	076(246)1171 076(246)4493

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
(株)ナルサワコンサルタント	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-21-11	025(282)2070 025(284)7993
(株)日本海コンサルタント	本 社	921-8042 金沢市泉本町 2-126	076(243)8258 076(243)0887
日 本 工 営 (株)	新 潟 支 店	950-0962 新潟市中央区出来島 1-11-28	025(280)1701 025(283)0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8	025(243)0431 025(241)1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口 2-12-1 (まるよし第5ビル2F)	025(243)4471 025(243)4472
パシフィック コンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神 1-1 (プラーカ 36階)	025(247)1341 025(246)1005
(株)プラネット・ コンサルタンツ	本 社	920-0353 金沢市赤土町ト 95-1	076(268)1206 076(268)1207
北電技術コンサルタント(株)	本 社	930-0858 富山市牛島町 13-15	076(432)4899 076(432)4280
北陸コンサルタント(株)	本 社	939-8213 富山市黒瀬 192	076(493)7717 076(493)7720
三井共同建設 コンサルタンツ(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8 (東大通野村ビル)	025(244)2503 025(244)2573
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山 1-1-22	025(265)1122 025(265)1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代 1-1-1	025(243)5454 025(243)5883
(社)北陸建設弘済会	本 部	950-0197 新潟市江南区亀田工業団地 2-3-4	025(381)1020 025(383)1205
(財)新潟県建設技術センター	本 部	950-1101 新潟市西区山田 2522-18	025(267)4804 025(267)4854

各部会・委員会委員名簿

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		田 辺 修	開発技建(株)
		金 子 慶 一	(株)国土開発センター
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
		西 潟 常 夫	(株)キタック

対外活動部会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		関 博	(株)オリエンタルコンサルタンツ
		柳 沢今朝次郎	(株)キタック
		田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
		大 平 則 夫	エヌシーイー(株)
幹 事		坂 上 悟	開発技建(株)
新潟地域委員	委員長	小野塚 眞 一	(株)キタック
	委員	阿 部 良 満	エヌシーイー(株)
	委員	山 岸 守	開発技建(株)
	委員	上 田 茂 樹	(株)クリエイイトセンター
	委員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	委員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
富山地域委員	委員長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	委員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	委員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
	委員	吉 田 勉	(株)上智
	委員	大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
	委員	栄 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	委員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
	委員	酒 井 幸 雄	(株)日本海コンサルタント

総括部会			
部 会 長		田 辺 修	開発技建(株)
		横 山 徹 成	開発技建(株)
		青 木 和 之	エヌシーイー(株)
		佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)

		浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
		山 木 芳 幸	相互技術(株)
		西 潟 常 夫	(株)キタック
		齋 藤 真 晴	開発技建(株)

技 術 部 会			
部 会 長		横 山 徹 成	開発技建(株)
道 路 委 員 会	委員長	渡 辺 雅 樹	開発技建(株)
	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
	委 員	平 岸 純	(株)国土開発センター
	委 員	田 村 茂 樹	大日本コンサルタント(株)
	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
	委 員	清 原 宏 二	開発技建(株)
橋 梁 委 員 会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
	委 員	洪 木 薫	エヌシーイー(株)
	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
	委 員	小 原 隆 一	(株)東洋設計
	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
河 川 及 び 砂 防 委 員 会	委員長	涌 井 正 樹	(株)キタック
	委 員	永 矢 貴 之	(株)建設技術研究所
	委 員	亀 田 満	(株)国土開発センター
	委 員	佐 藤 裕 司	五大開発(株)
	委 員	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
	委 員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
	委 員	竹 内 聡	開発技建(株)
	委 員	小 柳 徹	(株)キタック
ト ン ネル 委 員 会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
	委 員	小 林 博 実	エヌシーイー(株)
	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
	委 員	桐 沢 芳 広	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	委 員	平 野 吉 彦	(株)キタック
	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
都 市 計 画 委 員 会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
	委 員	荘 司 洋 文	(株)キタック
	委 員	永 島 未 輝	(株)国土開発センター
	委 員	石 月 謙 一	大日本コンサルタント(株)
	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建 設 環 境 委 員 会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)

	委員	稲葉弘之	アルスコンサルタンツ(株)
	委員	栗山元英	エヌシーイー(株)
	委員	酒井信次	大日本コンサルタント(株)
	委員	西暢人	(株)日本海コンサルタント
	委員	藤本隆則	(株)キタック
	委員	平野博範	(株)国土開発センター
指針等検討委員会	委員長	真嶋利寿	エヌシーイー(株)
	委員	高橋邦夫	開発技建(株)
	委員	森将恒	(株)キタック
	委員	大越敏行	大日本コンサルタント(株)
	委員	若林修	東京コンサルタンツ(株)
	委員	安藤正幸	(株)日本海コンサルタント
	委員	猪隆	(株)クリエイトセンター
情報委員会	委員長	樋浦慎	開発技建(株)
	委員	内山徹	エヌシーイー(株)
	委員	島健	(株)キタック
	委員	大関一成	(株)クリエイトセンター
	委員	湯川幹	(株)国土開発センター
	委員	野入英明	大日本コンサルタント(株)

広報部会			
部会長		青木和之	エヌシーイー(株)
広報委員会	委員長	間瀬義昭	開発技建(株)
	委員	浜辺良彦	相互技術(株)
	委員	佐々木大介	(株)ナルサワコンサルタント
	委員	佐藤浩	(株)開発技術コンサルタント
	委員	澤田伸也	大日本コンサルタント(株)
	委員	瀧上彰	アルスコンサルタンツ(株)
	委員	大久保喜代志	(株)東洋設計
	委員	深町耕史	(株)建設技術研究所
会誌編集委員会	委員長	武田稔	(株)クリエイトセンター
	委員	猪俣孝之	大日本コンサルタント(株)
	委員	須藤勝彦	(株)国土開発センター
	委員	齋藤浩幸	(株)キタック

災害対策部会			
部会長		技術部会長	
		道路委員	
		橋梁委員	
		河川及び砂防委員	
		トンネル委員	
		総括部会員	

編集後記

東日本大震災から一年が経過し、被災自治体では復興まちづくり計画策定が終了し、ようやく復興へのスタートラインとなったようだ。これまでも過去の経験を踏まえ考えうる対策を講じていたにも関わらず、想定外という言葉をよく聞いた。

復興計画は策定されたが、これからは復興に向けた取り組みを継続することが重要である。今回の被災地域は、市街地、農地、漁港や海岸など様々な地域となっており、被災の種類も地震や津波なども多様である。

復興に限らず、まちづくりは計画を立て、ある程度のハードが整備されたうえ、豊かな人の暮らしがあってはじめて完結するという。

既に復興まちづくりのモデルはできているというが、先の想定外をどこまで想定するかは難しい課題かもしれない。何れにせよ復興に向けた取り組みが加速されることを切に願うばかりです。

須藤勝彦



雪 の 音 Vol.115

発 行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
北陸支部

〒950-0965

新潟市中央区新光町6番地1

(興和ビル)

TEL(025)282-3370・FAX(025)282-3371

会誌編集委員会

委員長 武田 稔

委員 齋藤 浩幸 須藤 勝彦

猪俣 孝之

印 刷 (株)第一印刷所



発行：社団法人建設コンサルタント協会北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル
TEL (025) 282-3370 FAX (025) 282-3371